

一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）に伴う  
埋 藏 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書 1

# 大 塚 遺 跡

2009年3月

島根県教育委員会

## 序

島根県教育委員会では、島根県土木部の委託を受けて、平成19年度に一般県道矢尾今市線（大塚工区）予定地内に所在する大塚遺跡の発掘調査を実施しましたが、このたび調査報告書を刊行する運びとなりました。

大塚遺跡は、出雲平野の中央部に位置し、隣接する矢野遺跡、小山遺跡と共に四絡遺跡群と呼ばれ、当地の歴史のみならず、出雲平野の形成過程などを考えていく上で重要な地域となっています。今回の調査では、弥生時代中期以降の遺物が出土しており、古くからこの土地利用があったことが窺えました。

今回の調査結果が、出雲平野の歴史、地理を研究していく上での一助となれば幸いに思います。

最後になりましたが、本書を刊行するにあたり、ご協力いただきました地元出雲市民の方々、出雲市、島根県土木部をはじめ関係の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成21年3月

島根県教育委員会

教育長 藤原義光

## 例　　言

1. 本書は島根県土木部の委託を受けて、島根県教育委員会が平成19年度に実施した一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査の記録である。

2. 発掘調査地は下記の通りである。

島根県出雲市大塚町1024-5、1094

3. 調査組織は次のとおりである。

調査主体　島根県教育委員会

（平成19年度）

事務局　卜部吉博（島根県教育厅埋蔵文化財調査センター所長）、川原和人（同調整監）、

西尾克己（同企画調整スタッフ企画幹）、坂本憲一（同総務グループ課長）、

塩野由美子（同総務グループ主幹）、廣江耕史（同調査第3グループ課長）

調査員　伊藤　智（同文化財保護主任）、渡邊真二（同調査補助員）

調査指導（敬称略）

中村唯史（島根県立三瓶自然館サヒメル学芸員）

（平成20年度）

事務局　卜部吉博（島根県教育厅埋蔵文化財調査センター所長）、川原和人（同副所長）、

錦田剛志（同企画調整スタッフ企画員）、赤山　治（同総務グループ課長）、

土江　肇（同総務グループ主任）、宮澤明久（同調査第1グループ課長）

調査員　伊藤　智（同文化財保護主任）、阿部賢治（同調査補助員）、平井大介（同調査補助員）、是田和美（同調査補助員）

4. 採図中の方位は測量法による軸方位を示し、レベル高は海拔高を示す。

5. 第1図は出雲市都市計画平面図、第2図は、国土交通省国土地理院発行の1/25,000を使用した。

6. 本書に掲載した写真は調査員が撮影した。

7. 本書に掲載した実測図は各調査員が作成し、遺物整理作業員が整書した。

8. 本書の執筆は、第1章、第2章第1節、第3章の執筆及び編集は伊藤智が行い、第2章2節は平井大介が行った。

9. 本書掲載の遺跡出土遺物および実測図、写真などの資料は、島根県教育厅埋蔵文化財調査センター（松江市打出町33番地）で保管している。

## 目 次

第1章 調査に至る経緯と経過 .....	1
第2章 遺跡の位置と環境 .....	1
第1節 地理的環境 .....	1
第2節 歴史的環境 .....	1
第3章 発掘調査	
第1節 調査区の概要 .....	6
第2節 遺構と遺物 .....	6
I A区の遺構 .....	6
I A区の遺物 .....	11
I B区の遺構 .....	13
I B区の遺物 .....	15
II区の遺構 .....	21
II区の遺物 .....	21
第3節 総 括 .....	24
第4章 自然科学的分析	
大塚遺跡発掘調査に伴う微化石分析 .....	25

## 挿図目次

第1図 調査区位置図	2
第2図 周辺の遺跡	4
第3図 大塚遺跡遺構配置図	7
第4図 大塚遺跡北壁土層図	8
第5図 大塚遺跡東壁土層図	9
第6図 大塚遺跡IA区平面図	10
第7図 大塚遺跡IA区遺構土層図	11
第8図 大塚遺跡IA区遺物出土状況図	12
第9図 大塚遺跡IA区出土遺物実測図	13
第10図 大塚遺跡IB区平面図	14
第11図 大塚遺跡IB区遺構土層図	15
第12図 大塚遺跡IB区遺物出土状況図	16
第13図 大塚遺跡IB区出土遺物実測図	17
第14図 大塚遺跡II区平面図	18
第15図 大塚遺跡II区遺構土層図	19
第16図 大塚遺跡II区遺物出土状況図	20
第17図 大塚遺跡II区出土遺物実測図	21

## 図版目次

図版1	1 大塚遺跡調査前風景（北西から）
	2 大塚遺跡調査前風景（南から）
	3 大塚遺跡東壁土層堆積状況（南西から）
2	1 大塚遺跡IA区遺構検出状況（西から）
	2 大塚遺跡IA区溝1土層堆積状況（東から）
	3 大塚遺跡溝8・溝9土層堆積状況（南から）
3	1 大塚遺跡IA区遺構完掘状況（北から）
	2 大塚遺跡IB区完掘状況（北西から）
4	1 大塚遺跡II区完掘状況（北から）
	2 大塚遺跡溝28・溝29・溝30完掘状況（南西から）
5	1 大塚遺跡溝27土層堆積状況（西から）
	2 大塚遺跡溝27完掘状況（西から）
	3 大塚遺跡溝25・溝26完掘状況（西から）
6	大塚遺跡IA区出土遺物・IB区出土木製品
7	大塚遺跡IB区出土遺物
8	1 大塚遺跡II区出土遺物
	2 大塚遺跡溝9出土添え木

## 第1章 調査に至る経緯と経過

島根県では平成13年度から新世紀道路ネットワーク整備事業として、一般県道矢尾今市線の改良工事に着手した。これは地域高規格道路境出雲線（国道431号）と国道9号（出雲バイパス）及び山陰自動車道を連絡する道路であり、広域的な地域連携に寄与するため開始され、平成17年度からは地方道路交付金事業として進められた。

道路建設予定地内の埋蔵文化財の有無を確認するために島根県土木部は平成17年10月26日に出雲市に出雲市大塚町から高岡町地内の確認調査を依頼し、同年12月27日に出雲市により確認調査が行われ埋蔵文化財が確認され、島根県土木部に発掘調査が必要であると報告された。平成19年4月、島根県教育委員会は大塚工区の埋蔵文化財発掘調査の発掘調査の依頼を島根県土木部から受け、同年10月2日から12月10日に島根県埋蔵文化財調査センターが調査を実施した。

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

大塚遺跡は出雲平野のはば中央部、古斐伊川及び古神門川などの河川により形成された三角州上に位置する。現在北は古内藤川及び新内藤川が西流し、南西には小山遺跡、西には矢野遺跡が所在する。両遺跡を形成する微高地には縄文時代以降の遺構・遺物が確認されており、古くから土地の利用があったことが知られている。これらの両遺跡及び当遺跡を含めて四絡遺跡群と呼称し、当地の歴史のみならず、平野の形成過程を研究していく上でも重要な地域となっている。

### 第2節 歴史的環境

大塚遺跡（1）は矢野遺跡（2）、小山遺跡（3）、姫原西遺跡（4）、蔵小路西遺跡（5）、渡橋沖遺跡（6）とともに『四絡遺跡群』を形成している。その『四絡遺跡群』の中核とされる矢野遺跡は蔵小路西遺跡などとともに出雲平野中心部でもいち早く縄文時代後・晚期から始まる集落遺跡である。これらの遺跡は弥生時代前期も継続的に営まれていることは弥生時代前期の土器の出土から確認されている。また西に位置する老丁田遺跡（74）では縄文時代後期の磨消縄文土器が確認されている。

さらに弥生時代中期以降、出雲平野中央部の集落は急増し、矢野遺跡のほか天神遺跡（73）、古志本郷遺跡（87）、下古志遺跡（91）などの環壕を伴った拠点集落とともに『四絡遺跡群』の大塚遺跡、姫原西遺跡、小山遺跡もこの頃出現する。また中野美保遺跡（51）では中期中葉の方形貼石墓が確認されている。

弥生時代後期に至ると、出雲平野を見下ろす西谷丘陵に大型の四隅突出型埴丘墓が築かれ、平野中央部の中野美保遺跡でも四隅突出型埴丘墓が築かれている。西谷埴丘群（64）の西谷3号墓、4号墓とはほぼ同時期の吉備系特殊土器が矢野遺跡や白枝荒神遺跡（57）で確認されている。さらに矢野遺跡では瀬戸内地域に多く見られる分銅型土製品も採集され、また中野清水遺跡（49）では弥生時代後期から古墳時代前期にかけての西部瀬戸内、北部九州、韓国系の土器が確認されている。矢野遺跡からは碧玉製管玉、緑色凝灰岩製管玉、筋砥石、水晶・瑪瑙などの剥片や原石が出土しており、玉作が行われていた事が窺がえ、姫原西遺跡からは農具や生活用具といった多種多様な木製品



第1図 調査区位置図 ( $S = 1/5,000$ )

が出土し、また木橋が検出された。

弥生時代終末期から古墳時代前期にかけて四絡遺跡群では遺物の出土量は減少するが、中野美保遺跡や中野清水遺跡などでは前期以降も遺物が多く出土しており集落が存在したことが推測され、平野中央部でも地域により集落の消長が窺える。

古墳時代には平野縁辺部を中心に古墳が確認され、後期には出雲地方最大の前方後円墳である大念寺古墳（62）をはじめとする出雲西部の首長墓が今市町から上塙治町にかけての地域に築かれてる。また多くの古墳や横穴墓が平野部縁辺部などに分布するようになる。

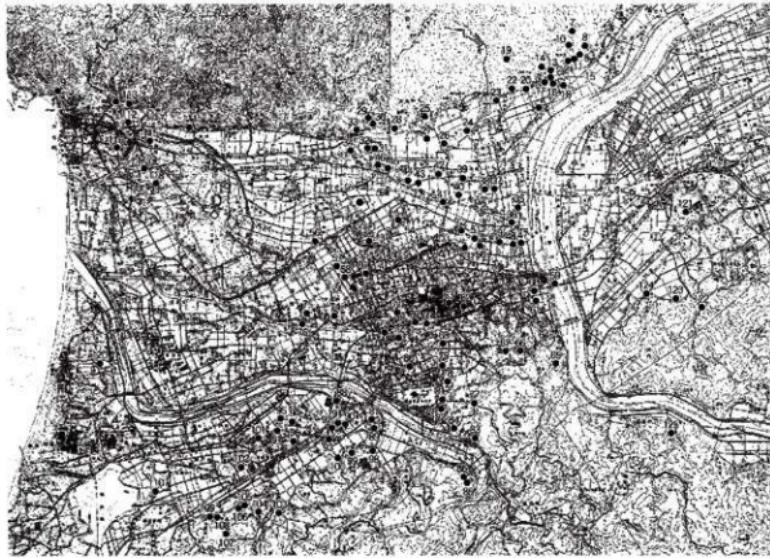
なお今回の調査地から約300m南西の大塚町内に地名の由来となった『大塚』とよばれるマウンド状構造物が存在する。江戸時代の地誌『雲陽志』には「七間四方の小塚あり、是をもつて村の号を大塚と号す、來歴詳ならず」と記されている。

律令時代に至ると、出雲平野の各地で遺跡が確認されている。奈良時代に編纂された『出雲國風土記』によれば四絡遺跡群周辺は「神門郡八野郷」に比定され、「八野郷に須佐能貢命の御子八野若日女命があり、そこへ大穴持命が結婚しようと屋を建てさせたので八野という」とする地名伝承を載せている。

四絡地区周辺で『風土記』に記載が見える神社は矢野社の他、比奈社、大山社がある。特に矢野社は、市内の記載社中古来のまま在地神と社地を保ち続けていると考えられており、古代から近世を通じて女神に対する信仰の深さが窺がえる。なお小山遺跡からは墨書き土器やヘラ描き土器が確認されている。

中世では、蔵小路西遺跡では12~15世紀の居館跡と考えられる遺構と輸入陶磁をはじめとする多くの遺物が確認されている。矢野遺跡では14~15世紀の屋敷跡、渡橋沖遺跡では13~14世紀の集落が確認されており、中世前半を中心に四絡遺跡群では大きな集落が形成されていたと考えられる。中でも蔵小路西遺跡は朝山家惣領家の居館跡と考えられている。なお『足利尊氏御教書案』（三木家文書）に「小山村是旧領」とあり、小山村周辺が三木氏の所領であったと推測できる。同町内に土壘及び溝跡が残存する遺構が存在し、三木氏館跡に比定されている。中世後半には、遺構や遺物の量は減少するが中世末から近世初めにかけては、小山遺跡、姫原西遺跡などで木棺墓が確認されている。中世における四絡遺跡群周辺の状況は以下のとおりである。中野美保遺跡では中世の水田跡、白枝本郷遺跡（75）では室町時代から江戸時代にかけての掘立柱建物跡、古墓、井戸、溝、余小路遺跡（76）では、室町時代後半から近世にかけての集落が確認されている。

近世では、斐伊川の東流が定まるなど河川の氾濫が文献資料からも窺え、平野中央部でも河川氾濫の痕跡が発掘調査で確認されている。また四絡遺跡内でも近世の掘立柱建物跡などが確認されており、集落が形成されていたと考えられる。周辺の遺跡では、井原遺跡（54）で土壌状遺構、壱丁田遺跡で骨壺を伴う墓や木棺墓、余小路遺跡で、中世後半から引き続き掘立柱建物跡及び木棺墓群が確認されている。



第2図 周辺の遺跡 (S = 1 / 20,000)

1 大塚遺跡	33 石臼遺跡	64 西谷墳墓群	95 多聞院北遺跡
2 矢野遺跡	34 高浜Ⅱ遺跡	65 長廻遺跡	96 芦渡遺跡
3 小山遺跡	35 萩杼Ⅰ遺跡	66 長者原廃寺	97 知井宮多聞院遺跡
4 姫原西遺跡	36 宮谷遺跡	67 菅沢遺跡	98 放れ山古墳
5 蔵小路西遺跡	37 萩杼古墓	68 角田遺跡	99 妙蓮寺山古墳
6 渡橋沖遺跡	38 萩杼Ⅱ遺跡	69 藤ヶ森遺跡	100 地蔵堂横穴墓群
7 堀切城址	39 福岡Ⅰ遺跡	70 術行寺遺跡	101 観知寺付近遺跡
8 興元寺・元寺遺跡	40 高岡遺跡第2地点	71 海上遺跡	102 神門横穴墓群
9 小早川正平の墓	41 高岡Ⅱ遺跡	72 高西遺跡	103 保知石遺跡
10 広瀬古墳	42 福岡Ⅱ遺跡	73 天神遺跡	104 浅柄Ⅱ遺跡
11 大寺古墳	43 高岡遺跡	74 奄丁田遺跡	105 間谷西古墳群
12 大寺谷遺跡	44 多福寺西遺跡	75 白枝本郷遺跡	106 間谷西Ⅱ遺跡
13 講壇山古墳群	45 高浜Ⅰ遺跡	76 余小路遺跡	107 北光寺遺跡
14 平林寺山古墳群	46 高浜駅周辺遺跡	77 上塙治横穴墓群	108 玉泉寺裏遺跡
15 古前背後横穴墓群	47 大津大河内遺跡	78 梁山遺跡	109 九景川遺跡
16 傘屋背後横穴墓群	48 大津町北遺跡	79 上塙治築山古墳	110 山地古墳
17 古前西北座上横穴墓群	49 中野清水遺跡	80 神門寺境内廃寺	111 豊根遺跡
18 青木遺跡	50 太歳遺跡	81 上塙治地藏山古墳	112 五反配遺跡
19 鶯ヶ巣城址	51 中野美保遺跡	82 半分古墳	113 真名井遺跡
20 門前遺跡	52 中野西遺跡	83 光明寺古墳群	114 出雲大社境内遺跡
21 馬渡り遺跡	53 中野一黒竹遺跡	84 三田谷Ⅰ遺跡	115 原山遺跡
22 東組遺跡	54 大塚古墳	85 小坂古墳	116 鹿藏山遺跡
23 龍善寺東遺跡	55 三木氏館址	86 刈山古墳群	117 南原遺跡
24 山持遺跡	56 井原遺跡	87 古志本郷遺跡	118 中分貝塚
25 矢尾横穴墓群	57 白枝荒神遺跡	88 弘法寺參堂前遺跡	119 稲佐遺跡
26 里方別所遺跡	58 小畠遺跡	89 大槻古墳	120 上長浜貝塚
27 里方本郷遺跡	59 豊伊川鉄橋遺跡	90 田畠遺跡	121 平野Ⅰ遺跡
28 前口遺跡	60 石土手遺跡	91 下古志遺跡	122 水室Ⅳ遺跡
29 大前山遺跡	61 神田遺跡	92 正運寺周辺遺跡	123 小野遺跡
30 熊見谷遺跡	62 大念寺古墳	93 宝塚古墳	124 後谷Ⅴ遺跡
31 里方八石原遺跡	63 琴山古墳	94 東原遺跡	125 菅原Ⅱ遺跡
32 岡田城址			

## 参考文献

- 『角川日本地名大辞典 32 烏根県』角川書店
- 『烏根県の地名 日本歴史地名体系33』平凡社
- 出雲市教育委員会 2002 『白枝荒神遺跡 井原遺跡』
- 出雲市教育委員会 2002 『井原遺跡発掘調査報告書』
- 出雲市教育委員会 1997 『白枝荒神遺跡』
- 出雲市教育委員会 1998 『遺跡が語る古代の出雲ー出雲平野の遺跡を中心としてー』
- 出雲市教育委員会 1991 『矢野遺跡第2地点発掘調査報告書』
- 出雲市教育委員会 1993 『小山遺跡発掘調査報告書』
- 出雲市教育委員会 1998 『小山遺跡第2地点発掘調査報告書』
- 出雲市教育委員会 2002 『小山遺跡第3地点発掘調査報告書（第3次発掘調査）』
- 出雲市教育委員会 2002 『小山遺跡第3地点発掘調査報告書（第4次発掘調査）』
- 出雲市教育委員会 2005 『小山遺跡第3地点発掘調査報告書（第5次発掘調査）』
- 出雲市教育委員会 1998 『壱丁田遺跡発掘調査報告書』
- 出雲市教育委員会 2006 『壱丁田遺跡第3次発掘調査報告書』
- 出雲市教育委員会 2008 『壱丁田遺跡（2次調査）』
- 鳥根県教育委員会 1999 『蔵小路西遺跡』
- 鳥根県教育委員会 1999 『姫原西遺跡』
- 鳥根県教育委員会 1999 『渡橋沖遺跡』
- 出雲市教育委員会 2002 『中野西遺跡』
- 鳥根県教育委員会 2004 『大津町北遺跡 中野清水遺跡』
- 鳥根県教育委員会 2005 『中野清水遺跡（2）』
- 鳥根県教育委員会 2006 『中野清水遺跡（3） 白枝本郷遺跡』
- 鳥根県教育委員会 2007 『余小路遺跡・小畠遺跡』

## 第3章 発掘調査

### 第1節 調査区の概要

今回の調査区は大塚遺跡が存在する微高地のほぼ北東端と考えられる部分に位置しており、南北約60m、東西3~20mの調査範囲で、面積は約800m<sup>2</sup>である。北からIA区、IB区、II区とした。調査前の標高は、IA区（IA及びIB区）が約3.8m、II区が約4.7mとなっており、IA区は水田、II区は宅地として利用されていた。基本層序は水田耕作土である第1層（茶色土）、現代の耕作土または造成土である第2層（黒褐色粘土ほか）、近世以降の耕作土と考えられる第3層（暗褐色粘質土）、及び第4層（黒褐色粘質土）、弥生時代中期から中世後半の遺物を含む第5層（黒色粘質土）、第5層から第7層にかけての漸次層と考えられる第6層（暗茶褐色粘質土）、地山の第7層（暗灰色砂質土）及び第8層（灰褐色砂層）となっている。第2層以下の層位からは、三瓶山由来と考えられるデイサイトが確認され、第8層からは常時伏流水が湧き出る状況であった。II区は宅地として利用されていたが、造成前は田畠として利用されていたと考えられる。

### 第2節 遺物と遺構

#### IA区の遺構（第6・7図）

IA区では第7層上面で溝跡19条、杭跡17箇所を検出した。

溝1は調査区の南端に位置し、北東から南西方向に直線的に延びており、幅80cm、深さ15cmである。

溝2~6、13は調査区北西の1段高い部分に位置し、北西から南東方向に、それぞれ軸は若干ずれるが直線的に延びている。幅は約30cm、深さ約3~8cmの規模で、底は凸凹しており、埋土には地山ブロックを含んでいる。ほぼ同時期の同じ性格の溝と考えられる。

溝7は調査区北東端に位置する。検出状況から前述の溝2などと同様な性格の溝と考えられる。

溝8及び11は調査区中央部の馬蹄形状にやや低くなった部分に位置し、南北方向に平行して検出された。規模は幅0.3~1.2m、深さ3~6cmで、前述の溝同様に、底は凸凹しており、埋土には地山ブロックを含んでいる。

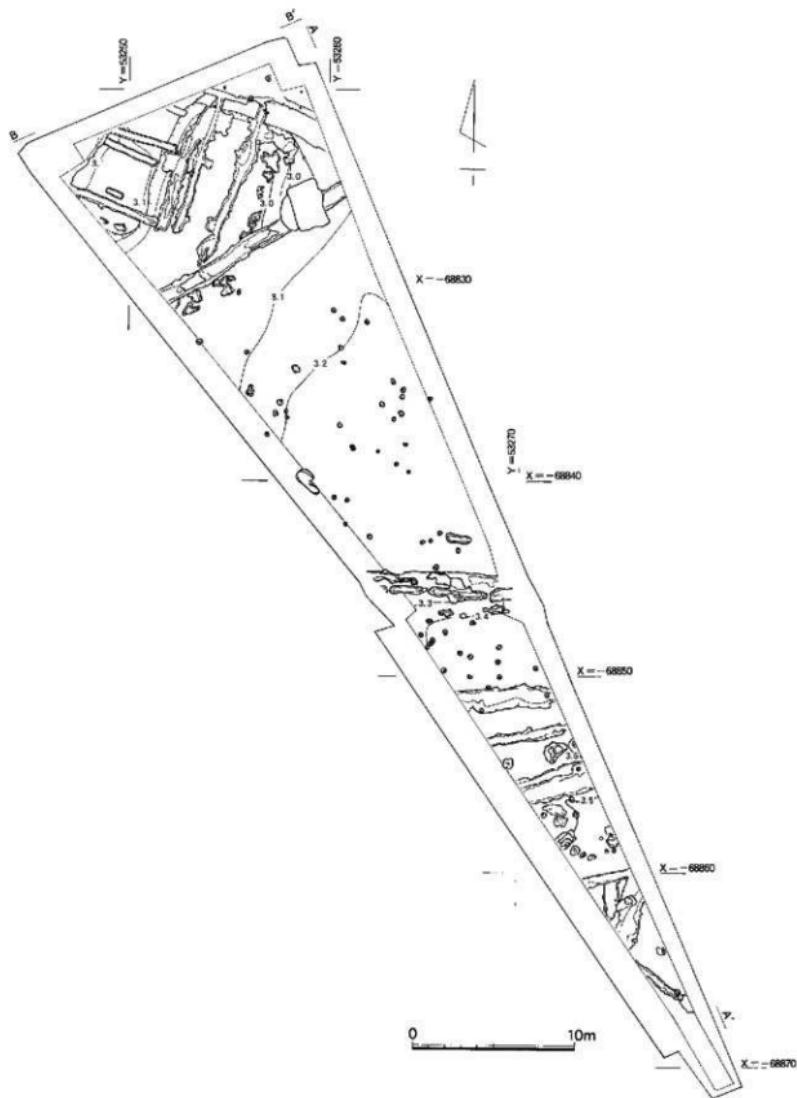
溝9及び10は調査区中央部の馬蹄形状に低くなった部分の縁に巡るように検出された。幅0.6~1.0m、深さ3~6cmである。溝9と10は同一の溝と考えられ、また溝8及び11との切り合は土層断面では判断できなかったが、検出状況から溝9及び10が溝8及び11より後に埋まつたと考えられる。

溝12、16~18は調査区中央部から南部に位置し、南北方向に延びていると考えられる。上面の攢乱により底部の一部分のみしか残存しておらず、規模等は不明である。

溝14は調査区北西端に位置する。南東肩のみの検出であり、規模等は不明である。

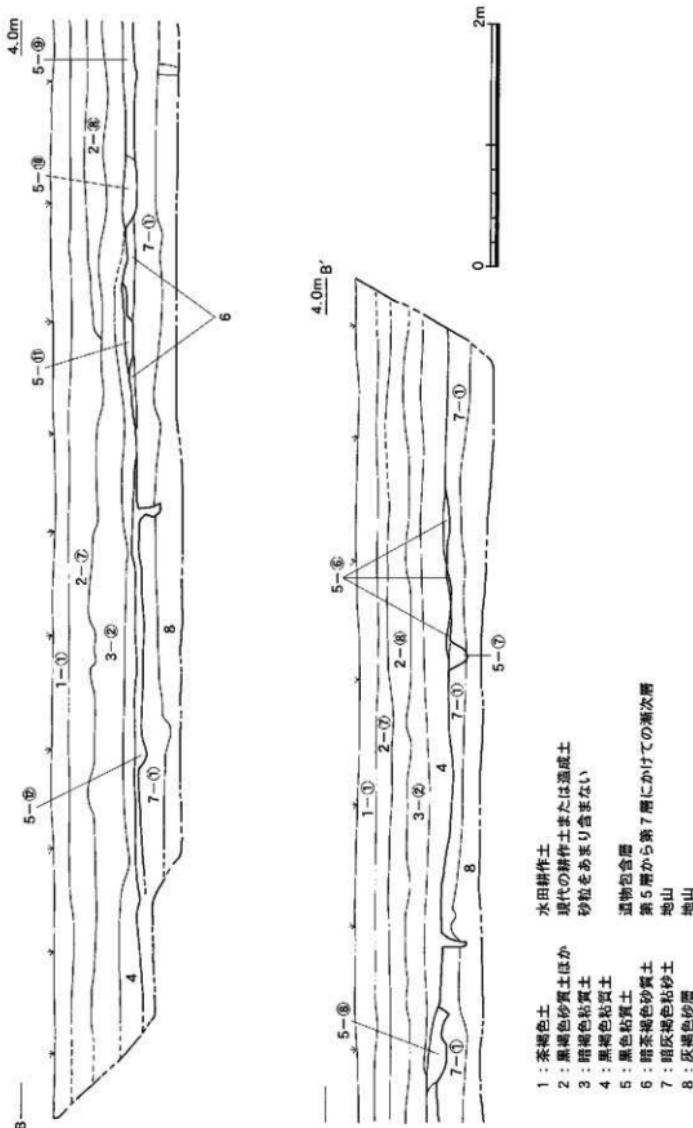
溝15は調査区北端に位置し、東西方向に延びている。検出状況から溝2などと同様の溝と考えられる。

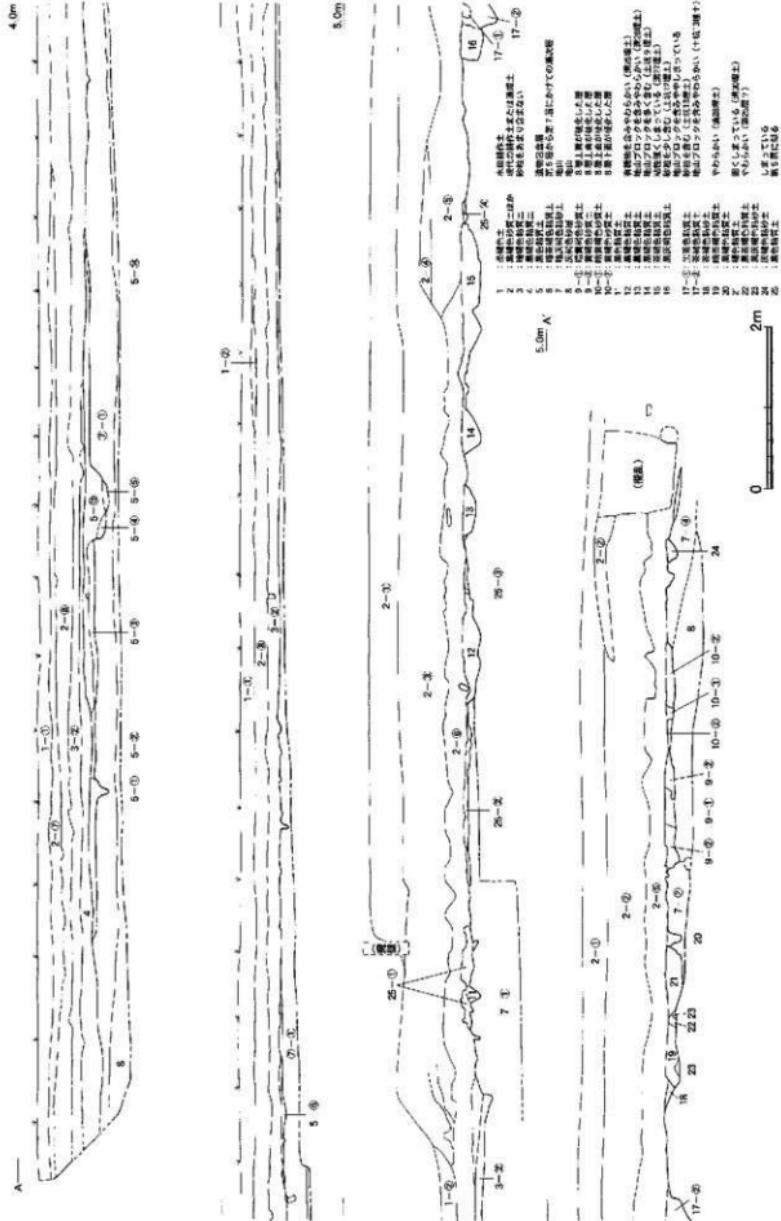
溝19は調査区中央部に位置し、東西方向に延びており、溝8に直交している。上面の攢乱により底部分のみ検出されており、溝8との切り合は不明であるが、溝2などと同様な性格の溝と考えられる。



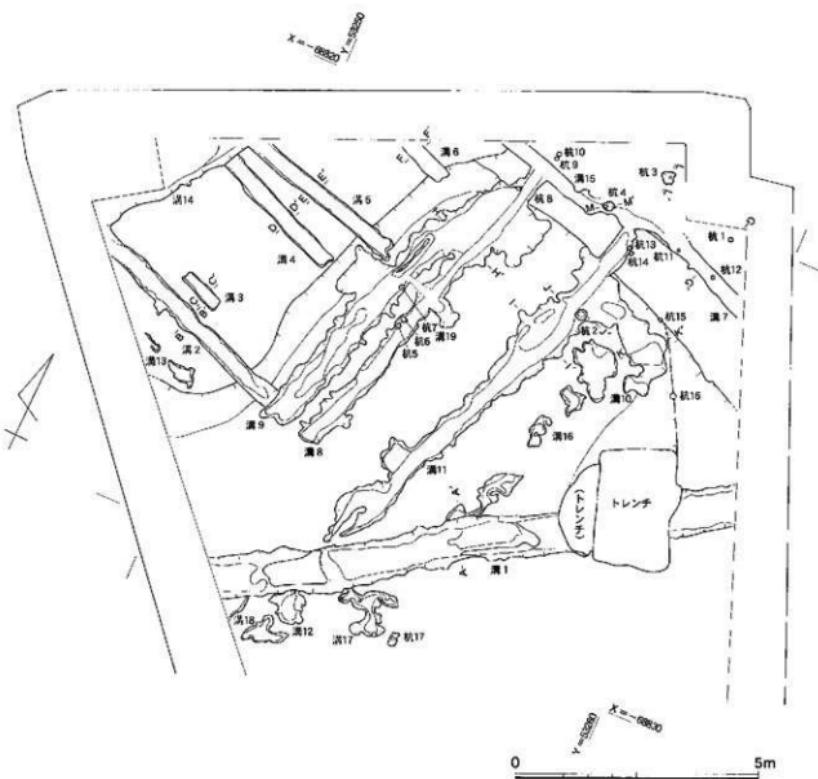
第3図 大塚遺跡遺構配置図 (S = 1/300)

第4図 大塚道路北壁土層図 ( $S = 1/40$ )



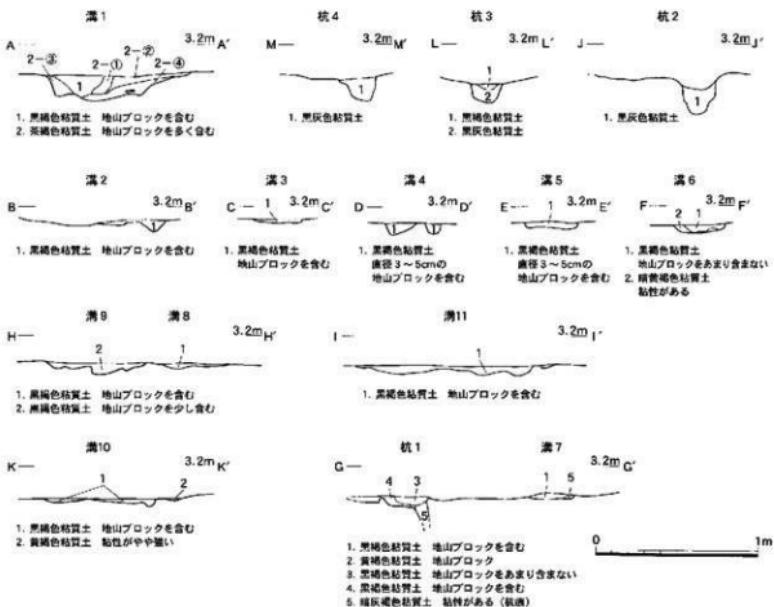


第5図 大塚道路東壁土層図 ( $S = 1/60$ )



第6図 大塚遺跡IA区平面図 ( $S = 1/100$ )

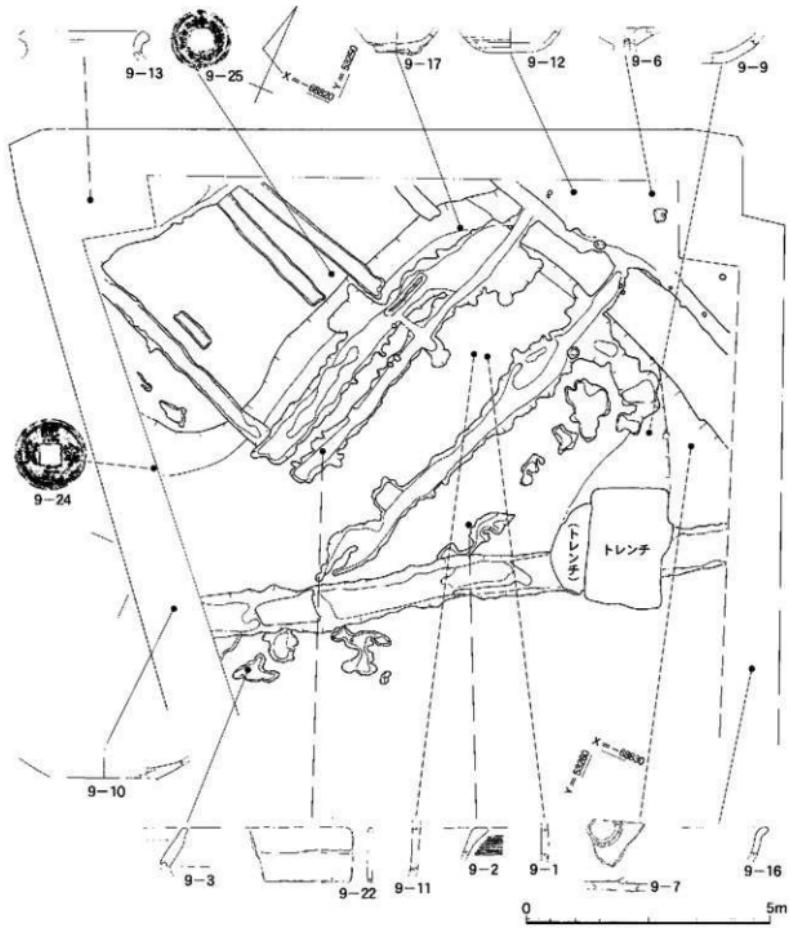
杭跡は大別すると2種類に分けられる。杭2～4は規模が直径20cm、深さ15cmであり、他の杭跡より規模が大きく柱穴の可能性も考えられる。その他は直径10cm前後の杭跡である。



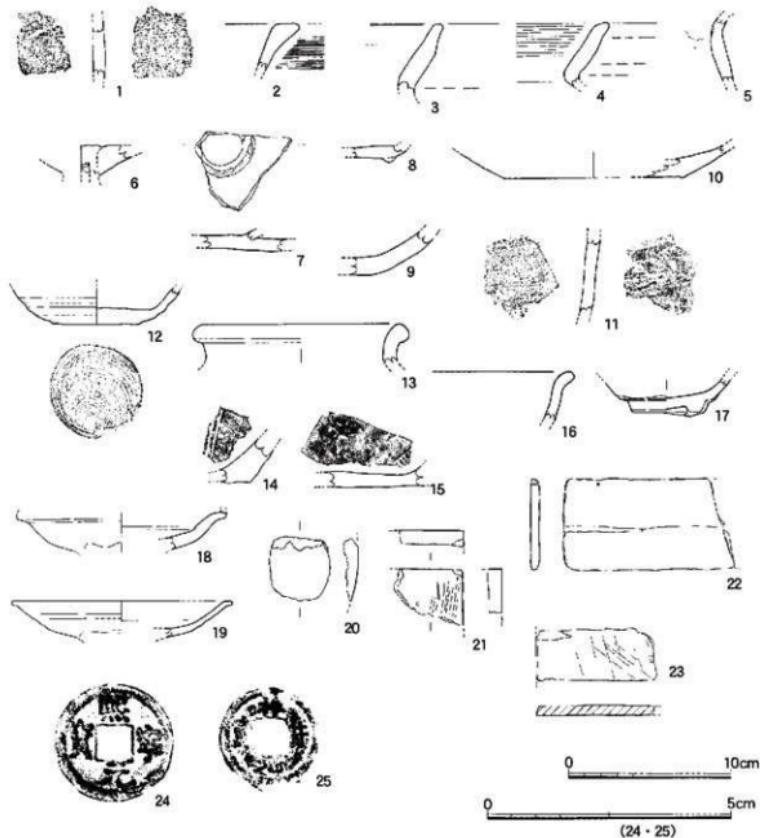
第7図 大塚遺跡 I A区遺構土層図 (S = 1/30)

#### I A区の遺物 (第8・9図)

1は弥生土器片と考えられる。外面ハケ目調整が施されており、胎土に直径約1~2mmの白色粒子を多く含んでいる。2は外面に擬円線文が施されている。器台もしくは高坏の口縁部と考えられる。3~6は土師器であり、3、4は壺の口縁部、6は高坏の坏底部である。5は高坏の脚部と考えられる。7~10は須恵器である。7は輪状のつまみを持つ蓋で、つまみ部分が打ち抜かれている。8は高台付き坏もしくは皿の底部である。11は瓦質土器と考えられる。12は土師質土器・坏の底部であり、底部内面に敲打痕がある。13、14は備前焼である。13は壺の口縁部で、重根編年IV B期と考えられる。14は擂鉢の底部である。15は陶器・擂鉢の底部であり、備前焼の可能性がある。16は中国青磁・碗の口縁部で、上田D類と考えられる。17は瀬戸・美濃の天目茶碗・底部である。釉乗れ部分の外側に窯道具の一部と考えられる物質が付着している。18、19は唐津焼の折縁皿である。20は塩基性片岩製の磨製石斧片と考えられる。21は玄武岩製の硯であり、砥石に転用されたと考えられる。22は板材であり上端に穿孔が1箇所施されている。23は板材でありに切り抜きがある。24、25は銅錢で、それぞれ熙寧元寶、祥符元寶である。



第8図 大塚遺跡I-A区遺物出土状況図 (S = 1/100)



第9図 大塚遺跡I A区出土遺物実測図 (S = 1/3, 1/1)

#### I B区の遺構 (第10・11図)

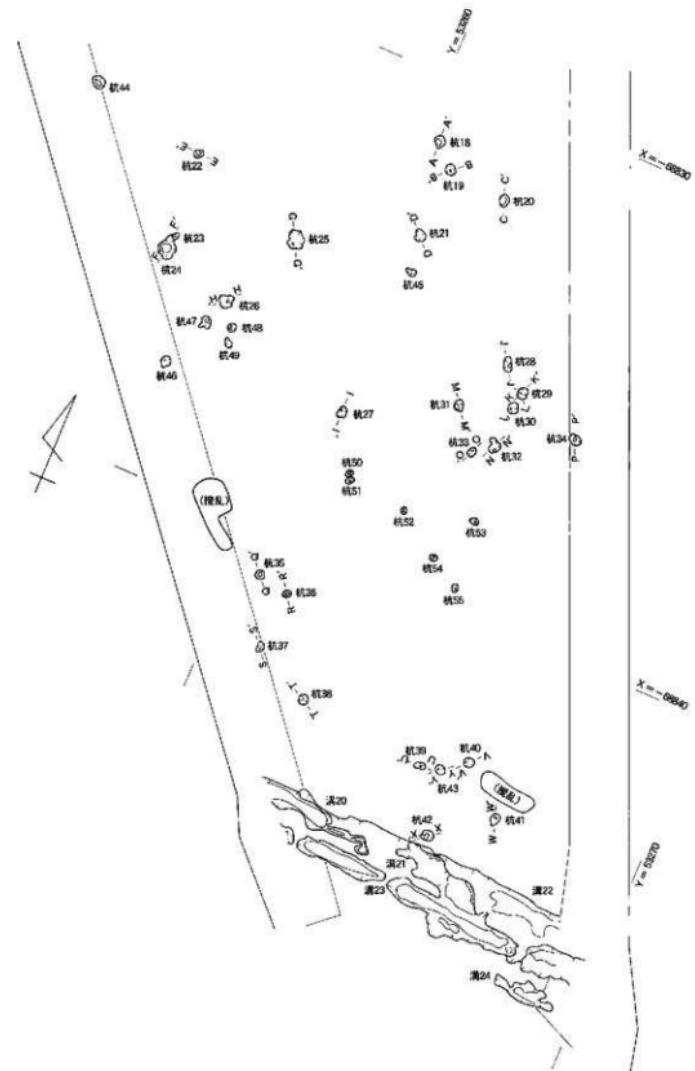
I B区では溝状遺構5条、杭跡38箇所を検出した。

溝20~22は調査区南端に位置し東西方向に直線状に延びている。上面の搅乱により規模は不明であるが、底は凸凹した状態になっている。

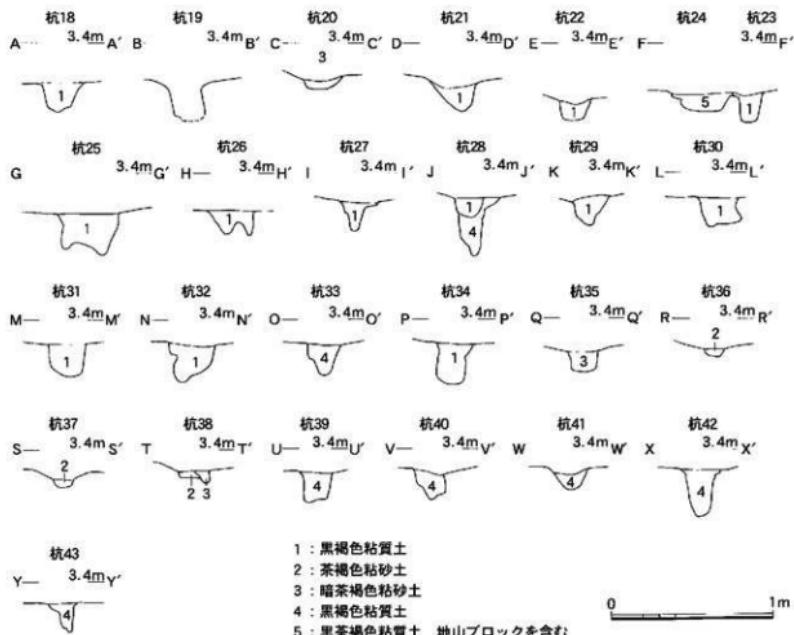
溝23及び24は調査区南端の溝20~22の南に接する場所に位置し、平行している。深さは数cmから20cmであり、浅い部分と深い部分がある。

溝20~24から遺物は出土していないが、近世以降の時期と考えられる。

杭跡の大きさは直径10~30cm、深さ5~30cmであり、埋土は黒褐色粘質土と茶褐色粘砂土（もしくは暗茶褐色粘砂土）に大別された。



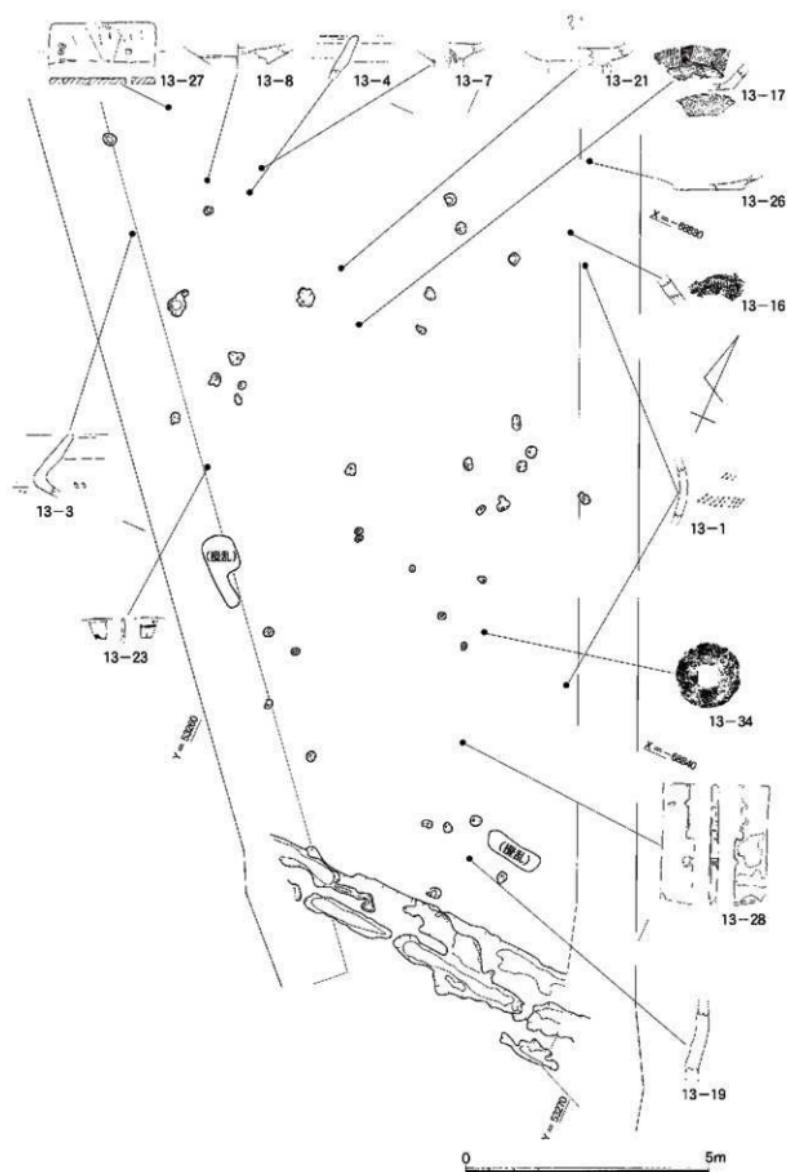
第10図 大塚遺跡 I B 区平面図 ( $S = 1/100$ )



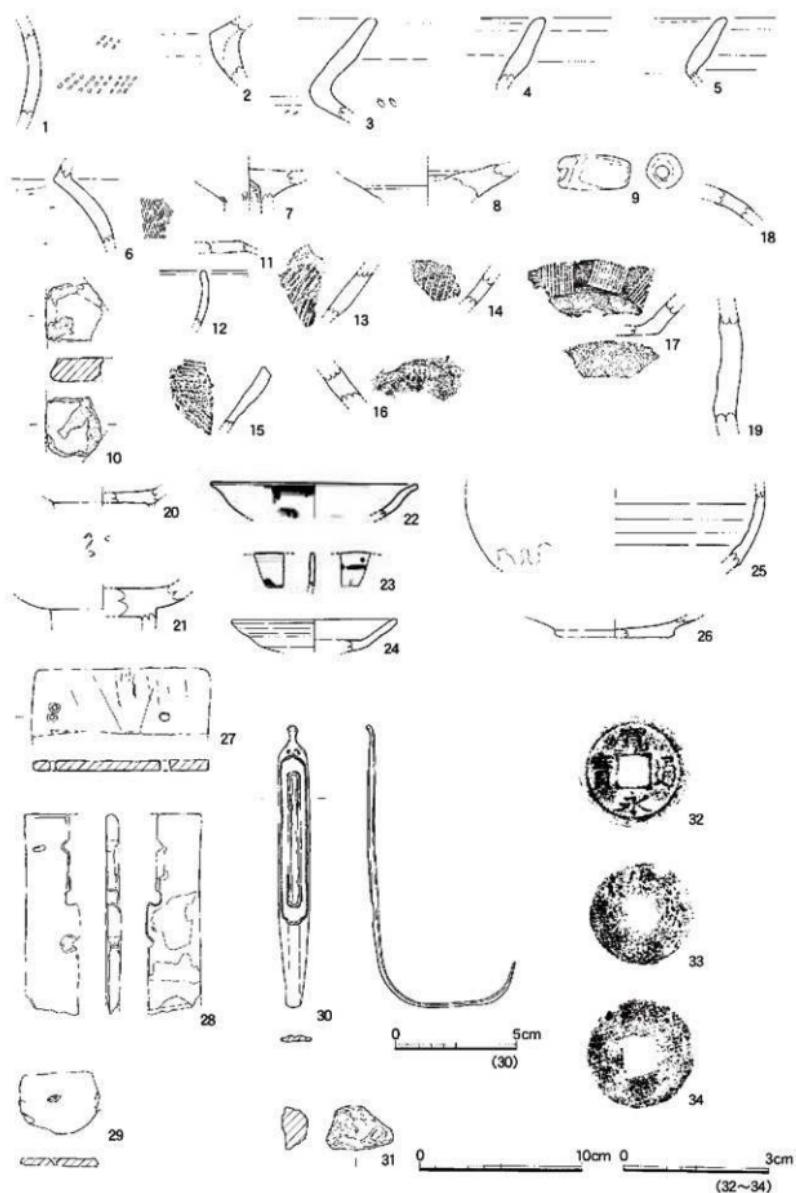
第11図 大塚遺跡 I B 区遺構土層図 (S = 1/30)

#### I B 区の遺物 (第12・13図)

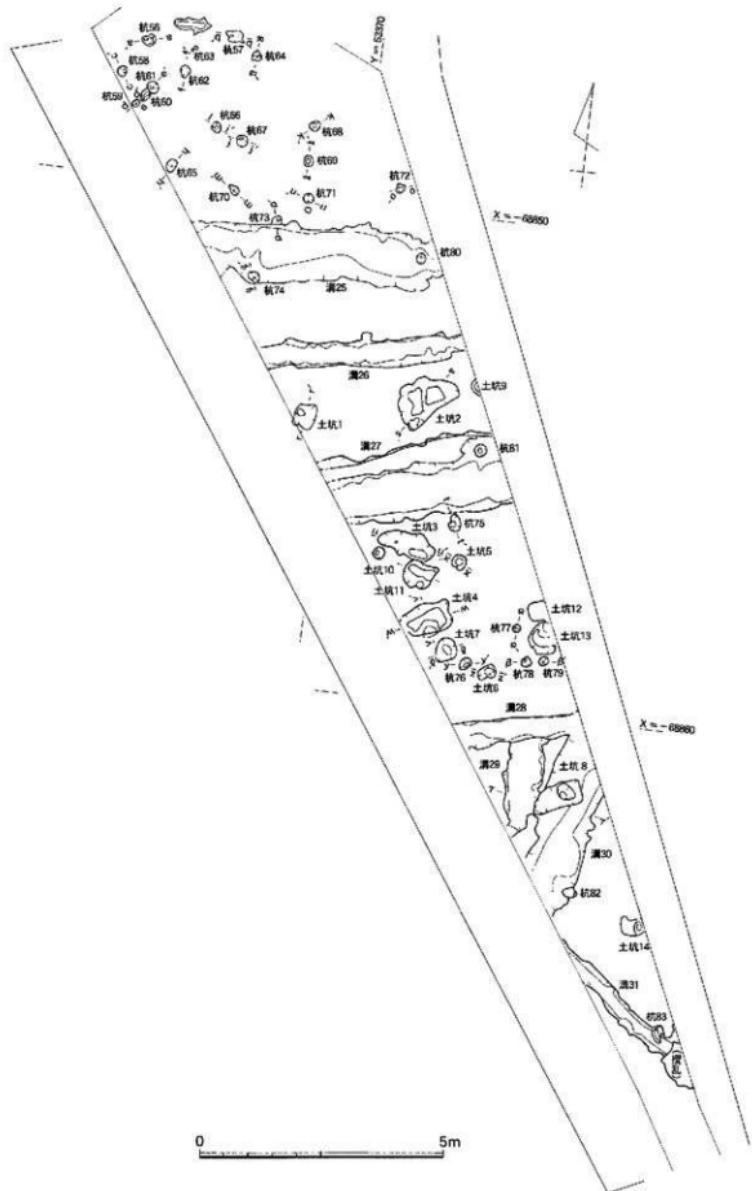
1は弥生土器である。外面に列点文が施された中期の壺・胴部と考えられる。2は器台もしくは高坏の筒部と考えられる。3～8は土師器である。3～5は壺の口縁部である。3は頸部に列点文が施されている。6は壺の肩部である。7、8は高坏の坏底部である。9は土錐である。10は板状の土製品である。11・12は須恵器の蓋・天井部と坏・口縁部である。13～16は中世須恵器もしくは瓦質土器と考えられる。13・14は擂鉢の体部で内面に描目が施されている。15は鉢の口縁部と考えられる。16は壺の肩部と考えられる。17は土師質土器の擂鉢・底部である。18～25は陶器である。18は壺もしくは壺の肩部で備前焼の可能性がある。19は備前焼・壺類の体部である。20は皿の底部で、瀬戸・美濃の大窯期頃と考えられる。21は中国青磁・碗の底部で、見込に印刻が施されている。22・23は中国青花でそれぞれ碗、皿と考えられる。24は李朝陶器の皿の可能性が考えられる。25は陶器・壺類の体部と考えられる。内面は無釉であり、外面は鉄釉が施された後、わら灰釉が施されている。26～29は木製品である。26は碗もしくは皿の底部であり、外面は黒漆、内面は赤漆が施されている。27は板材であり、3箇所穿孔されている。28は板材であり、表面に漆が施されている可能性がある。火鑽白として再利用されたと考えられる。29は円盤状の板材で中央部に穿孔が施されている。30は金属製の笄でありL字状に湾曲している。31は鉄滓である。32～34は銅錢である。32は寛永通寶である。



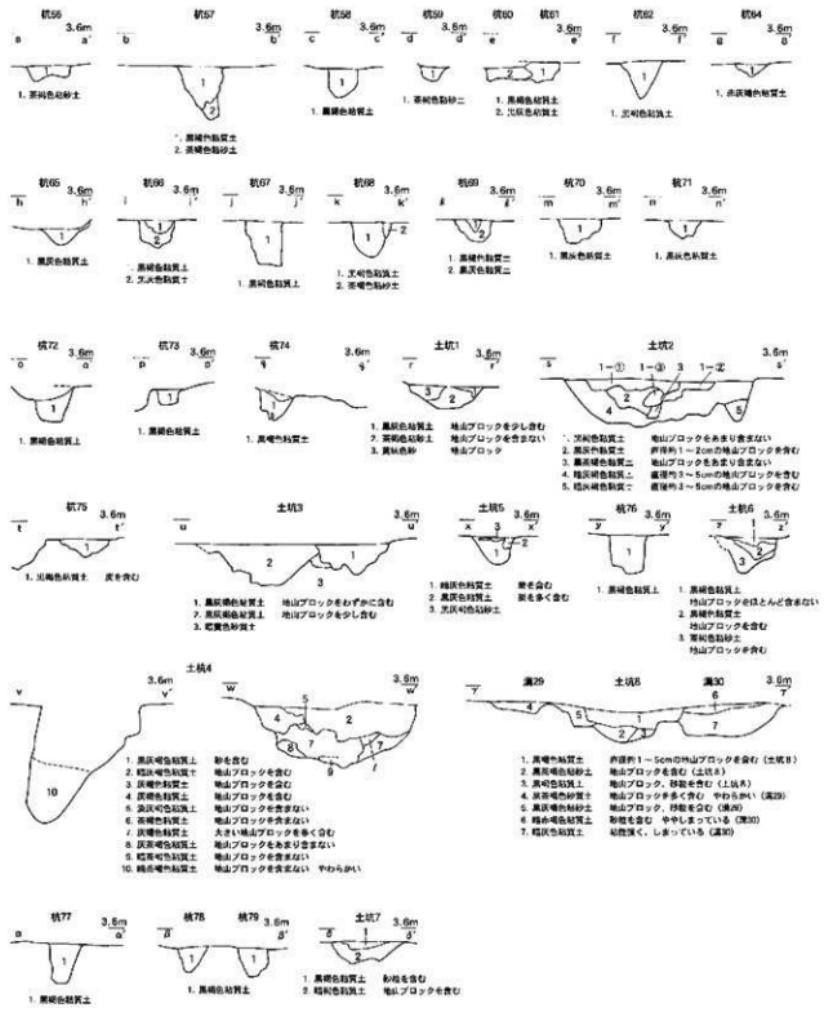
第12図 大塚遺跡 I B 区遺物出土状況図 ( $S = 1/100$ )



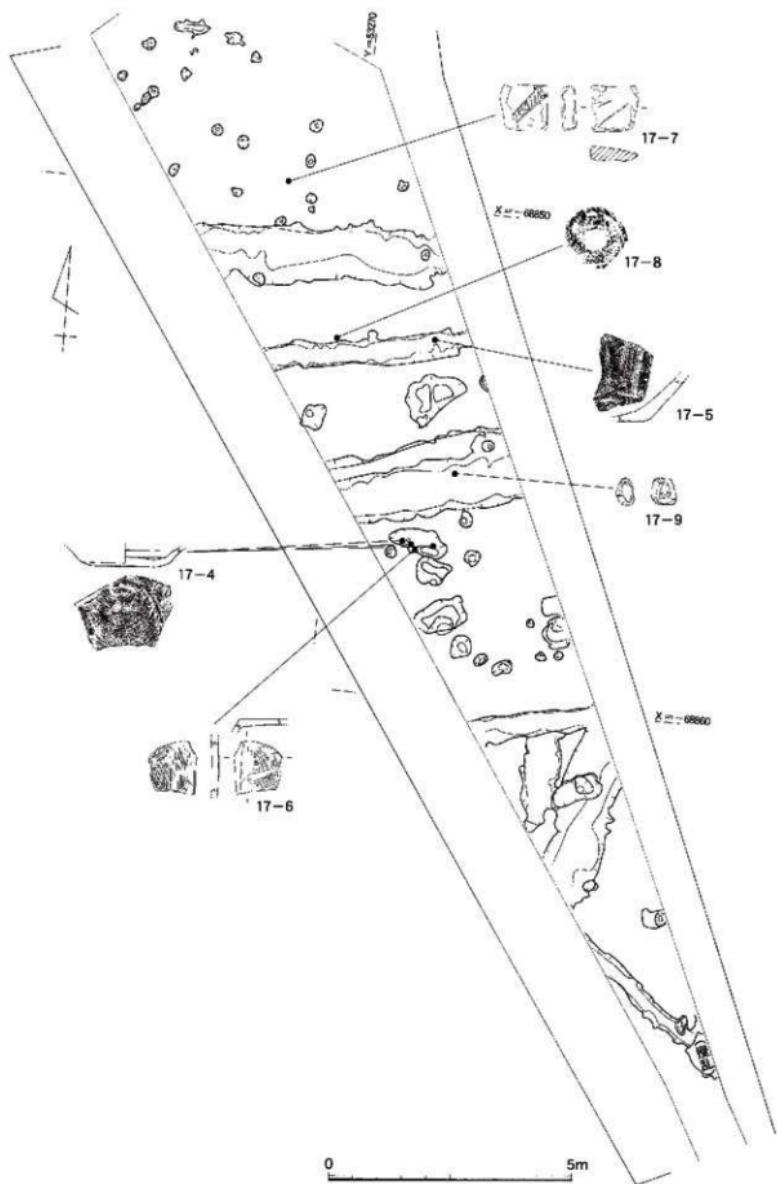
第13図 大塚遺跡I B区出土遺物実測図 (S = 1/3、1/1、1/2)



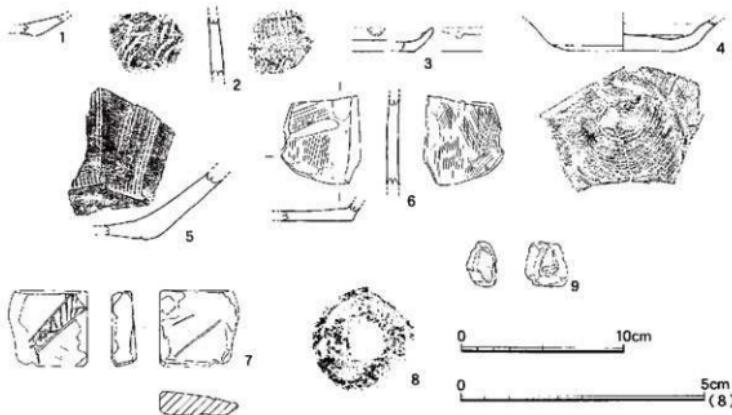
第14図 大塚遺跡II区平面図 ( $S = 1/100$ )



第15図 大塚遺跡II区遺構土層図 ( $S = 1/30$ )



第16図 大塚遺跡 II 区遺物出土状況図 (S = 1 / 100)



第17図 大塚遺跡II区出土遺物実測図 (S=1/3, 1/1)

## II区の遺構 (第14・16図)

溝状遺構7条、土坑15基、杭跡27箇所を検出した。

溝25~28は調査区中央部に位置し、ほぼ東西方向へ直線状に延びている。底は凸凹した状態であり、溝26から陶器・播鉢の底部が出土している。

溝29は調査区南側に位置し、南北方向に延びている。北端は溝28により切られており、底が浅く埋土には地山ブロックが多く含まれている。

溝30は溝29の東隣に位置し、北東から南西方向へ直線状に延びている。埋土は暗灰色粘質土で固くしまっている。土坑8と切り合っており、溝30が埋まった後土坑8が掘られている。

溝31は調査区南端に位置し、北西から南東方向へ直線状に延びている。溝の南東端は現代の搅乱を受けている。

比較的大きな土坑である土坑2~4、土坑13は埋土に地山ブロックを多く含んでいる。土坑2及び土坑4は南部分が窪んでおり、柱穴と考えられる。土坑8は井戸など給水用の土坑と考えられる。

杭跡は調査区北部に多く分布し、それぞれの杭の土層堆積状況はIB区の状況と同様で黒褐色粘質土と茶褐色粘砂土（もしくは暗茶褐色粘砂土）に大別された。

## II区の遺物 (第16・17図)

1は須恵器・壺もしくは皿の底部で、糸切りが施されている。2は中世須恵器・壺類の体部である。3、4は土師質土器である。3は皿の口縁部であり、内面に黒褐色の付着物があり灯明皿の可能性がある。4は壺の底部である。5は陶器・播鉢の底部である。内面に10条の横目が施されている。6は土師質土器であり、内外面にハケ目調整が施されている。火鉢の一部の可能性が考えられる。7は緑色凝灰岩製石製品の一部と考えらる。外面に線刻があり、砥石として再利用された可能性が考えられる。8は寛永通寶である。9は顔偶の可能性がある。

## 土器・陶磁器・土製品観察表

横河番号	出土地点	時代	種別	形態	断面	断面 (mm)	内径 (mm)	外径 (mm)	鉢底	底部の特徴	培土	焼成	色調	備考
9-1	IAK-3	弥生土器	-	-	-	-	-	-	内面: ハケ付	自然な断面の形状を含む。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	不焼	黒褐色	10H 3/1
9-2	IAK-2-5	弥生土器	箱台 立脚	口縁部	-	-	-	-	内面: 略膨張 内面: ミガキ	自然な断面の形状を含む。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	焼成	1.3H 7/3 1.3H 8/1	
9-3	IAK-1	-	土器	口縁部	-	-	-	-	内面: メタラジ 内面: メタラジ (底ハリ)	自然な断面の形状を含む。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	焼成	1.3H 7/2 1.3H 7/2	
9-4	IAK-1	-	土器	口縁部	-	-	-	-	内面: メタラジ 内面: メタラジ (ハラケ付)	自然な断面の形状を含む。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	焼成	1.3H 7/2 1.3H 8/1	
9-5	IAK-3-6	土器	口縁付	脚部	-	-	-	-	内面: ハケ付 内面: ハラケメタラジ	自然な断面の形状を含む。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	焼成	1.3H 7/2	
9-6	IAK-3-5	土器	口縁付	脚部	-	-	-	-	内面: ハラケ付 内面: ハラケ	自然な断面の形状を含む。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	焼成	1.3H 7/2	
9-7	IAK-6	土器	足耳	(20)	-	-	-	-	内面: メタラジ 内面: ハラケ	自然な断面の形状を含む。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	焼成	1.3H 7/2 1.3H 8/1	輪郭のみを入力の 打ち落している。
9-8	IAK-3-4	脚部	丸くは 延	-	-	-	-	-	内面: ハラケ 内面: ハラケ	自然な断面の形状を含む。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	焼成	1.3H 7/1	
9-9	IAK-3-5	直邊足	縦々	-	-	-	-	-	内面: ハラケ付	自然な断面の形状を含む。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	焼成	1.3H 7/1	
9-10	IAK-5	直邊足	縦々	口縁部	-	-	1.2	内面: ハラケ 内面: ハラケ	直角上～2mmの断面を含む。	直角	焼成	1.3H 8/1	ゆがみあり	
9-11	IAK-1	-	直質土器?	脚部?	-	-	-	-	内面: ハラケ	直角上～2mmの断面を含む。	直角	焼成	1.3H 8/1	
9-12	IAK-3	土器	20	耳	底部	-	-	2.1	内面: メタラジ 内面: メタラジ	自然な断面以下の形状を含む。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	に赤い黄 に赤い黄 に赤い黄	10H 7/1 10H 7/1 10H 7/1	内側に褐色の剥離 あり
9-13	IAK-2	土器	直	口縁部	-	-	-	-	内面: メタラジ 内面: メタラジ	自然な断面以下の形状を含む。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	未焼 未焼	2.3H 4/2 2.3H 4/2	直邊地 直邊地
9-14	IAK-1	-	脚部	底付	-	-	-	-	内面: 壁面	自然な断面以下の形状を含む。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	焼成	1.3H 7/2 1.3H 8/1	直邊地
9-15	IAK-3-5	脚部	底付	-	-	-	-	-	内面: ハラケ 内面: ハラケ	自然な断面以下の形状を含む。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	焼成	1.3H 7/0 1.3H 7/0 1.3H 8/1	直邊地
9-16	IAK-3-6	中空部	脚	口縁部	-	7.0	*	-	内面: 滑隠(ハラ) 内面: 滑隠(ハラ)	滑隠	直角	不焼	NL	1.0H 7/1
9-17	IAK-3	脚部	脚	底部	-	-	1.1	内面: 滑隠(ハラ) 内面: 滑隠(ハラ)	滑隠	直角	未焼	1.3H 8/1	1.3H 8/1 直邊地	
9-18	IAK-3	脚部	脚	-	-	-	-	-	内面: 滑隠 内面: 滑隠	滑隠	直角	未焼	1.3H 8/1 直邊地	1.3H 8/1 直邊地
9-19	IAK-3	脚部	脚	-	-	3.6	-	-	内面: 滑隠 内面: 滑隠	滑隠	直角	未焼	1.3H 8/1	1.3H 8/1 直邊地
3-1	IBIK-5	弥生土器	盤?	-	-	-	-	-	内面: 鋸歯文 内面: ハケ付	直角上～2mmの斜面を有する。	直角	に赤い黄	10H 7/3	
3-2	IBIK-2	-	弥生土器	箱台	筒部	-	-	-	内面: ミガキ 内面: ミガキ ナラ 内面: ナラ	直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	焼成	NL NL	
3-3	IBIK-1	土器	直	口縁部	-	-	-	-	内面: コヨナラ 内面: ハラケ付	直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	未焼	1.3H 7/2 1.3H 8/1	
3-4	IBIK-1	1	土器	直	口縁部	-	-	-	内面: コヨナラ 内面: ハラケ付	直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	未焼	1.3H 7/2 1.3H 8/2	
3-5	IBIK-1	1	土器	直	口縁部	-	-	-	内面: コヨナラ 内面: コヨナラ	直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	未焼	1.3H 7/2 1.3H 8/2	
3-6	IBIK-3-4	土器	直	口縁部	-	-	-	-	内面: ハケ付 内面: ハラケ付	直角上～2mmの斜面を有する。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	未焼	1.3H 7/2 1.3H 8/2	
3-7	IBIK-1	-	土器	直	底付	-	-	-	内面: ハケ付	直角上～2mmの斜面を有する。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	未焼	1.3H 7/2 未焼	未焼
3-8	IBIK-4	土器	直	口縁付	底付	-	-	-	内面: コヨナラ 内面: コヨナラ ハラケ付	直角上～2mmの斜面を有する。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	未焼	1.3H 7/2 1.3H 8/2	
3-9	IBIK-4	土器	直	口縁付	底付	4.1 (4.2)	2.2 (2.0)	-	内面: ハラ 内面: ハラ	直角の上部2mmの斜面を有する。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	未焼	1.3H 7/1	
3-10	IBIK-3-4	土器	直	口縁付	-	-	-	-	内面: ハラ 内面: ハラ	直角の上部2mmの斜面を有する。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	未焼		
3-11	IBIK-1	-	脚部	盤?	-	-	-	-	内面: ハラ 内面: ハラ	直角の上部2mmの斜面を有する。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	未焼	K 3/1	
3-12	IBIK-3	脚部	盤?	口縁部	-	-	-	-	内面: ハラ 内面: ハラ	直角の上部2mmの斜面を有する。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	未焼	1.3H 8/1	
3-13	IBIK-3-4	中空部	盤?	口縁部	-	-	-	-	内面: ハラ 内面: ハラ	直角の上部2mmの斜面を有する。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	未焼	1.3H 7/2	
3-14	IBIK-1	-	中空部	盤?	口縁部	-	-	-	内面: ハラ 内面: ハラ	直角の上部2mmの斜面を有する。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	未焼	1.3H 7/2	
3-15	IBIK-3-4	中空部	盤?	口縁部	-	-	-	-	内面: ハラ 内面: ハラ	直角の上部2mmの斜面を有する。直角の上部2mmの色鉢底を有する。	直角	未焼	1.3H 8/1	

標本番号	出土場所	時代	種類	形態	幅( cm)	高さ( cm)	厚さ( cm)	測定・手筋の特徴	唐土	焼成	色・質	備考
13-16	1区K	-	中腹輪切刀	直?	-	-	-	内面: ナグ 内面: タタキ	直径1mm以下の砂利混 合物	良好	KJ1	109.6/1
13-17	1区K	4	上部斜上方	輪切	-	-	-	内面: 鋸歯切 内面: 流れによる磨耗	直径1mm以下の砂利混 合物	良好	高麗 高麗 高麗 高麗	1.25.3/2 3.25.3/2
13-18	1区K	2-4	円筒	直ちしく 目立つ	-	-	-	内面: から民撫 内面: 一	直径1mm以下の砂利混 合物	良好	KJ1	99.5/1
13-19	1区K	2-4	圓筒	直?	-	-	-	内面: 一 内面: 一	直径1mm以下の砂利混 合物	良好	KJ1	KJ1
13-20	1区K	2-4	圓筒	直	-	-	-	内面: 滑面 内面: 滑面	直径1mm以下の砂利混 合物	良好	KJ1	109.8/1
13-21	1区K	4	圓筒	直	-	-	-	内面: 滑面 内面: 滑面	直径1mm以下の砂利混 合物	良好	KJ1	1.25.3/2
13-22	1区K	4	中腹輪切	直	-	-	-	内面: 滑面 内面: 滑面	滑面	良好	KJ1	小野口-群か
13-23	1区K	-	中腹輪切	直?	-	-	-	内面: 滑面 内面: 滑面	滑面	良好	KJ1	KJ1
13-24	1区K	2-4	中腹輪切	直	-	-	-	内面: 滑面 内面: 滑面	直径1mm以下の砂利混 合物	良好	KJ1	中腹輪切も見えた 内面: 滑面
13-25	1区K	2-4	圓筒	直斜?	-	-	-	内面: から民撫 内面: 滑面	直径1mm以下の砂利混 合物	良好	KJ1	1.25.3/2
17-1	IIK	2	直筒器	直?	1.5	-	-	内面: 上側ナラ 内面: 下側ナラ	直径1mm以下の砂利混 合物	良好	KJ1	109.5/1
17-2	IIK	-	直筒器	直	-	-	-	内面: タタキ 内面: でこぼこ	直径1mm以下の砂利混 合物	良好	KJ1	99.5/1
17-3	IIK	-	直筒器	直	0.6	-	-	内面: 上側ナラ 内面: 下側ナラ	直径1mm以下の砂利混 合物	良好	KJ1	1.25.3/2
17-4	IIK 1.5m.3	-	上部斜上方	环	灰陶	-	-	内面: 一	直径1mm以下の砂利混 合物	良好	KJ1	2.35.7/2
17-5	IIK	-	直筒器	直斜?	-	-	-	内面: 上側ナラ 内面: 下側ナラ	直径1mm以下の砂利混 合物	良好	KJ1	2.35.6/2
17-6	IIK	-	上部斜上方	直斜?	-	-	-	内面: ハラか-毛毛剥離 内面: ハラか-毛毛剥離	直径1mm以下の砂利混 合物	良好	KJ1	2.35.6/2

### 木器観察表

標本番号	出土場所	時代	種類	形態	寸法( cm)	幅( cm)	厚さ( cm)	備考
9-20	1AK	-	板材	ナラ?	0.5	3.6	0.3	内面はさわやかで、堅密、肉眼で見ても
9-21	1AK	2-5	板材	ナラ?	1.1	3.2	0.7	内面と外側には凹凸、削痕がされている
10-26	1AK	-	板	クリ	-	-	-	内面: 2mmの凹合む 2mmの凸合む
10-27	1AK	5	板材	ナラ?	1.0	1.2	0.6	滑り感有
10-28	1AK	-	木筒	スギ?	2.3	2.4	0.8	
10-29	1AK	3	-	スギ?	4.9	3.9	0.5	

### 石器・石製品観察表

標本番号	出土場所	時代	種類	形態	寸法( cm)	幅( cm)	厚さ( cm)	備考
9-20	1区K	2-5	磨製石斧	堅密な刃	-	-	-	
9-21	1AK	5	板	直角	-	-	-	上面が勢しく突起する。研削が施されたものと思われる
10-7	IIK	1.5m.3	塊	褐色粘土岩	-	-	-	塊状表面に転用され、表面に傷跡あり。他の表面に埋め込まれた中空部の表面は研削面にかけられた河面地
10-9	IIK	2-5	不規則マ	ダイナミック	-	-	-	滑り感が

### 金属器観察表

標本番号	出土場所	時代	種類	形態	寸法( cm)	幅( cm)	厚さ( cm)	測定・又筋の特徴	備考
10-30	1AK	-	帶	25.2	2.5	0.6			意図的にさわやかに研削されている
10-31	1AK	4	鉄斧	4.	2.7	-	-		

### 古銭観察表

標本番号	出土場所	出土地點	時代	名稱	測定年代	備考
9-31	1AK	-	新字元代	起末 1098		
9-32	1AK	-	新字元代	新字元代		
10-20	1AK	-	東北朝代	(1097~1117) (1097~1150)	測定未	
10-33	1AK	-	-	-	-	
10-34	IIK	-	東北朝代	東北朝代		

### 第3節 総 括

今回の調査地は近世以降の削平により中世以前の遺構はあまり検出されなかつた。また遺物の出土量も少なく、遺構の時期の特定は困難である。調査地の本来の地形は南から北へ降る地形だったと考えられ、近世以降の削平が比較的水平に行われていたことが今回の調査で確認された。調査区北端のIA区では、弥生時代中期から中世後半の遺物包含層（第5層）を検出している。第5層の直下で検出した遺構は中世後半頃のものと考えられる。検出した溝状遺構は、溝1を除いて、北西から南東方向に延びる溝とそれに直交する溝に大別できる。前者は調査区の北西端のやや高い部分に位置している。調査IA区以外の溝状遺構や土坑の多くは、基本的に近世以降のものと考えられが調査II区の東西方向に延びる溝25、溝26、溝27は埋土が第5層に似ているので中世後半に遡る可能性が含まれる。また溝30は暗灰色の固く締まった粘質土が堆積しており、時期は不明であるが他の遺構とは異なる性格が考えられる。

今回の調査地では中世以前の集落や、施設が存在したかどうかは不明であるが、弥生時代中期以降の土地利用があったことが出土遺物から窺えた。調査IA区で検出した溝状遺構は水田の用排水に伴う施設もしくは、畑の畝間などの可能性が考えられる。溝9からは長さ60cm、直径1~1.5cmの添え木（写真掲載）に使用された可能性のある木が出土しており、IA区周辺は中世後半以降に田畠として利用されていた可能性が考えられる。また調査IA区北西端の高い部分は、北北東から南南西に延びる畦畔だった可能性があり、中世後半頃の調査地周辺の地割りを表していることが考えられる。

## 第4章 自然科学的分析

### 大塚遺跡発掘調査に伴う微化石分析

渡辺 正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）

#### はじめに

大塚遺跡は、鳥取県東部出雲市大塚町に位置する。

本報告は、大塚遺跡内の堆積環境及び農耕を中心とした古植生を推定するために行った、花粉分析及びプラント・オパール分析の調査報告の概報である。

#### 分析試料及び分析方法について

図1のトレンチ平面図に、試料採取地点を示す。各地点の模式柱状図及び試料採取層準は、各地点のダイアグラム（図2～10）に示した。

花粉分析は渡辺（1995）に従って行った。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡により通常400倍で、必要に応じ600倍あるいは1000倍を用いて行った。花粉分析では原則的に木本花粉総数が200個体以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った。またイネ科花粉を、中村（1974）に従いイネを含む可能性の高い大型のイネ科（40ミクロン以上）と、イネを含む可能性の低い小型のイネ科（40ミクロン未満）に細分している。

プラント・オパール分析処理は藤原（1976）のグラスピース法に従い行った。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡により通常400倍で、必要に応じ600倍あるいは1000倍を用いて行った。同定に当り、イネ科機動細胞由来の分類群のほか、イネ科の形態分類群及び樹木起源の分類群についても対象とした。また、プラント・オパールと同時に計数したグラスピースの個数が300を超えるまで計数を行った。

#### 分析結果

花粉分析用プレパラート、及び花粉分析処理残渣を用いた微化石の概査結果は、表1のとおりである（植物片、炭は花粉分析用プレパラートを観察した。珪藻、火山ガラス、植物珪酸体は、花粉分析処理の残渣を観察した）。

花粉分析結果を図2～12の花粉ダイアグラムに示す。図2～5の花粉ダイアグラムでは木本花粉総数を基数として分類群ごとに百分率を算出し、木本花粉を黒塗りスペクトルで、草本花粉を白抜きスペクトルで示した。統計処理に十分な量の木本化石が検出できなかった試料では、検出できた種類を「\*」で示した。また右端の花粉総合ダイアグラムでは木本花粉を針葉樹花粉、広葉樹花粉に細分し、これらに草本花粉、胞子の総数を加えたものを基数として、分類群ごとに累積百分率として示した。図6～9では、各種類の計数値を単位重量あたりの含有量に換算してスペクトルで示した。

プラント・オパール分析結果を図10のプラント・オパールダイアグラムに示す。プラント・オパールダイアグラムでは、1 gあたりの含有数に換算した数を、検出した分類群ごとにスペクトルで示した。

## 花粉分帶

花粉分析の結果を基に局地花粉帯を設定した。以下に各局地花粉帯の特徴を示す。本文中では花粉化石群集の変遷を明らかにするために、下位から上位に向けて記載し、試料Noも下位から上位に向かって記した。

### (1) V帯 (No 4 地点試料No 2、1)

アカガシ亜属が卓越し、スギ属、コナラ亜属を伴う。木本花粉の割合は低く、草本花粉、胞子の割合が高い。

### (2) IV帯 (No 1 地点試料No 8～6、No 2 地点試料No 5、No 3 地点試料No 3)

マツ属（複雑管束亜属）、スギ属が卓越傾向を示すほか、コナラ亜属、アカガシ亜属を伴う。草本花粉の割合が高く、草本花粉の出現傾向から b、a 亜帯に細分できる。

#### ① b 亜帯 (No 1 地点試料No 8、No 2 地点試料No 5、No 3 地点試料No 3)

イネ科（40ミクロン以上）のほか、イネ科（40ミクロン未満）、カヤツリグサ科、アブラナ科、セリ科、ヨモギ属、タンボボ亜科が高率を示す。また、胞子ではオシダ科・チャセンシダ科が高率を示す。

#### ② a 亜帯 (No 1 地点試料No 7、6)

イネ科（40ミクロン以上）の出現率が特に高く、イネ科（40ミクロン未満）、ヨモギ属がこれに次ぐ。カヤツリグサ科、アブラナ科、セリ科、ヨモギ属、タンボボ亜科などもやや高率を示し、胞子ではオシダ科・チャセンシダ科が高率を示す。

### (3) III帯 (No 1 地点試料No 5、4、No 2 地点試料No 4、3、No 3 地点試料No 2)

マツ属（複雑管束亜属）が卓越し、スギ属、コナラ亜属、アカガシ亜属を伴う。草本花粉ではイネ科（40ミクロン以上）が特に高率を示す。

### (4) II帯 (No 1 地点試料No 3、2、No 2 地点試料No 2、1、No 3 地点試料No 1)

マツ属（複雑管束亜属）が卓越し、スギ属、コナラ亜属を伴う。草本花粉ではイネ科（40ミクロン以上）が特に高率を示す。

### (5) I 帯 (No 1 地点試料No 1)

マツ属（複雑管束亜属）が卓越し、スギ属を伴う。草本花粉ではイネ科（40ミクロン以上）が特に高率を示す。

## 植生変遷

花粉帯ごとに、遺跡周辺の古植生を推定する。

### (1) V帯期

#### ① 堆積年代

花粉化石の含有量が少なく、検出できた花粉化石の多くが上位層から混入した可能性や、一部の種類の花粉化石が選択的に劣化消滅した可能性も指摘できる。

得られた花粉化石群集は、アカガシ亜属が卓越することから、渡辺ほか（2003）のシイノキ属・アカガシ亜属帯に対比できる。また、スギ属が増加傾向を示すことからスギ属亜帯の初期に対比される可能性がある。また、スギ属亜帯は縄文時代晩期から古代末ごろまでの植生を示すと考えられており、V帯が縄文時代晩期の植生を示す可能性が指摘できる。

#### ② 耕作について

分析試料が溝状遺構の埋土であることを考えると、得られた草本花粉、胞子の母植物は溝状遺構のそばに生育していたと考えられる。イネ科（40ミクロン以上）花粉が高率で検出されるほか、ソバ属も検出されることから、近辺で農耕が行われていた可能性が指摘できる。ただし、ソバ属を単位あたりの粒数で見るとごく微量であり、前述のように上位層から混入した可能性も多い。一方イネ科（40ミクロン未満）、ヨモギ属、タンボボ亜科やオシダ科—チャセンシダ科が高率を示し、草原的な環境が広がっていた可能性もある。稲作が行われていたとすれば、陸稲であった可能性も指摘できる。

### ③ 近辺の山々の植生

アカガシ亜属が卓越しコナラ亜属を伴うことから、中国山地に続く出雲平野南の丘陵部や北山（弥山）山地には、カシ類を主要素とする照葉樹林が広く分布しており、所によりコナラ類を主要素とする落葉広葉樹林（遷移林）が分布していたと考えられる。出雲平野は斐伊川、神戸川の砂州、あるいは扇状地から成り、これら河川の氾濫により、不安定な土地条件が続いたと考えられる。コナラ林で代表される遷移林はこのような場所にも分布していた可能性がある。また、コナラ亜属と同程度の出現率を示し、増加傾向を示すスギ属は、扇状地端部や扇状地上の河川跡など水条件の良い場所でスギ林を成していた可能性がある。また、ほかの針葉樹同様に、照葉樹林に混淆していた可能性もあるほか、中国山地に中間温帯林として生育していた可能性もある。

## （2）IV帶期

### ① 堆積年代

遺跡内層序の4～6層が対応し、弥生時代中期から中世後半という広い時期を示す可能性がある。花粉化石群集の渡辺（2003）との対比では、シノキ属・アカガシ亜属等スギ亜属末からイネ科帯・アカガシ亜属・コナラ亜属亜帯にかけての特徴を示し、遺物から推定できる年代とはほぼ重なる。

### ② 耕作について

イネ科（40ミクロン以上）花粉の出現率が高く、ソバ属など畠作物が検出され、4層から3層下部が耕作土であった可能性が指摘できる。一方で、特にb亜帯ではイネ科（40ミクロン未満）やカヤツリグサ科、セリ科、ヨモギ属などいわゆる「雑草」の花粉検出量がこれらの検出量を上回る。No 1 地点でのプラント・オーバル分析結果では、IV帶の堆積物全体を通じてイネが多量に検出されているが、ヨシやウシクサ族、スキ属型も検出されるなど。イネ科花粉の検出傾向と一致する。特にb亜帯の時期には水田の管理が悪く、「雑草」が茂っていたと考えられる。

### ③ 近辺の山々の植生

マツ属（複維管束亜属）が高率を示し、アカガシ亜属がV帯に比べ低率になることから、中国山地に続く出雲平野南の丘陵部や北山（弥山）山地には人手が加わり、V帯で見られた照葉樹林がアカマツ林へと変化していったと考えられる。一方スギ属も高率を示し、スギ林が扇状地端部や扇状地上の河川跡など水条件の良い場所に分布していたと考えられる。

## （3）III帶期

### ① 堆積年代について

マツ属が卓越し、コナラ亜属を伴うなど、渡辺（2003）のイネ科帯アカガシ亜属・コナラ亜属亜帯の特徴を示し、中世ごろの植生を反映する可能性が指摘できる。

### ② 耕作について

イネ科（40ミクロン以上）花粉の出現率が高いほか、ソバ属など畠作物が検出される。3層が耕作土

であった可能性が指摘され、アブラナ科など栽培種を含み高率を示す種類は、畠作物に由来した可能性が指摘できる。IV帶に比べ「雑草」の花粉検出量がやや少なくなり、耕作地の管理が良くなつたと考えられる。

### ③ 近辺の山々の植生

マツ属（複雑管束亜属）が更に高率になり、アカガシ亜属は低率になる。また、コナラ亜属が微増する。これらのことから、中国山地に続く出雲平野南の丘陵部や北山（弥山）山地でのアカマツ林の分布が更に広がつていったと考えられる。コナラ亜属の微増傾向は、「里山」、「薪炭林」としてコナラ林の広がりを示唆すると考えられる。一方スギ属は低率になることからスギ林が伐採され、耕作地へ変化したと考えられる。

### （4）II带期

#### ① 堆積年代について

マツ属が卓越することから、渡辺（2003）のイネ科帯マツ属（複雑管束亜属）亜帯の特徴を示し、近世ごろの植生を反映する可能性が指摘できる。

#### ② 耕作について

イネ科（40ミクロン以上）花粉に対し、「雑草」の割合が低くなる。花ソバ属のほかワタ属も検出されるようになるなど、3層上部から2層下部が耕作土であった可能性が指摘される。耕作地の管理は一層良くなつたと考えられる。

#### ③ 近辺の山々の植生

マツ属（複雑管束亜属）が更に高率になり、コナラ亜属やアカガシ亜属が低率になる。一方、含有量で見るとコナラ亜属、アカガシ亜属の変化は乏しく、マツ属（複雑管束亜属）の増加が著しい。カシ類やナラ類に変化が認められないことから、森林植生の変化ではなく、草地あるいは裸地であつた浜山砂丘などにクロマツ林が進入したものと考えられる。スギ属の含有量がほぼ倍増することから、クロマツやスギが植林された可能性も指摘できる。したがつて、中国山地に続く出雲平野南の丘陵部や北山（弥山）山地でのアカマツ林やコナラ林、照葉樹林の分布にはほとんど変化がなかつたと考えられる。

### （5）I带期

#### ① 堆積年代について

マツ属が卓越しスギ属を伴うことから、渡辺（2003）のイネ科帯マツ属（複雑管束亜属）・スギ属亜帯の特徴を示し、近代以降の植生を反映する可能性が指摘できる。

#### ② 耕作について

イネ科（40ミクロン以上）の割合が高く、2層上部も引き続き耕作土であったと考えられる。ソラマメ属が検出され、ソラマメの栽培が推定される。また、アブラナ科の割合は低いが、含有量は多く、ナタネ栽培の可能性も指摘できる。

#### ③ 近辺の山々の植生

マツ属（複雑管束亜属）がやや低率になり、スギ属が増加する。一方、含有量ではスギ属が増加しているもほか、マツ属（複雑管束亜属）も増加している。マツ属（複雑管束亜属）の増加は「築地松」で代表される屋敷林の影響が高いと考えられる。一方スギの急増は、近代、特に太平洋戦争後の造林制作によるスギ植林の影響が高いと考えられる。

## まとめ

大塚遺跡での花粉分析、プラント・オパール分析を基に、以下の事柄を行った。

(1) 花粉分析結果から、本地域の地域花粉帯としてV～I帯の5地域花粉帯を設定した。更にIV帯をそれぞれb、a亜帯に2分した。

(2) 各種分析結果を基に、渡辺（2003）との対比から各層の堆積時期を推定した。この結果、今回の分析結果が縄文時代晩期以降の植生を示していると考えられた。

(3) 大塚遺跡近辺から出雲平野周辺山地での古環境変遷を推定した。特筆すべき点は、以下の事柄である。

① V帯が示す花粉化石群集には、花粉化石の含有量が少なかったことから不確定な要素が多い。近辺でイネやソバが栽培されていた可能性が指摘できるが、断定はできない。

② 遺跡内でイネなど耕作が断定される時期は、IV帯期以降である。同時にソバ、ナタネ、時期がややずれるがワタ、ソラマメなども栽培されていたと考えられる。

③ 今回新たに含有量を算出したことにより、アカマツ、クロマツによる二次林化、あるいは植林の様相を推定することができた。

## 引用文献

- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－。考古学と自然科学、9, p.15-29, 図表一覧。
- 中村 純（1974）イネ科花粉について。とくにイネを中心として。第四紀研究、13, 187-197。
- 渡辺正巳（1995）花粉分析法。考古資料分析法、84, 85. ニュー・サイエンス社
- 渡辺正巳・佐伯純也・平木裕子（2003）日久美遺跡発掘調査における花粉層序の成果。鳥取地学会誌、7, 1-9。

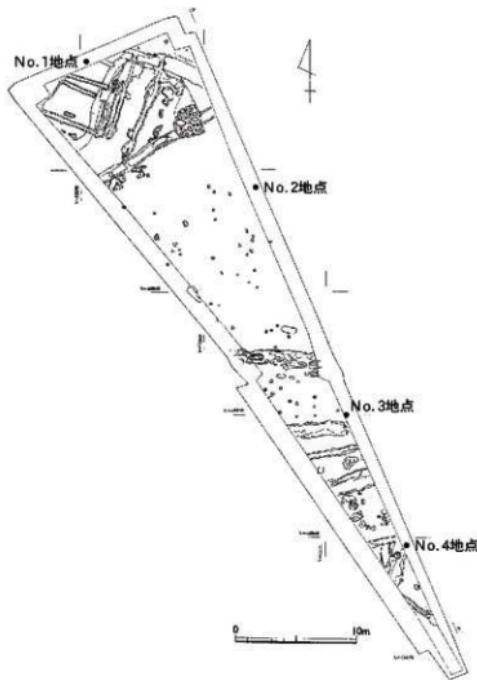


図1 トレンチ平面図及び試料採取位置

表1. 微化石概査結果

地点名	試料No	花粉	炭	植物片	珪藻	火山ガラス	プラント・オーバル
No.1 地点	1	○	△	△	○	△	○
	2	○	△	△	○	△	○
	3	○	△	△	○	△	○
	4	○	△	△	○	△	○
	5	○	△	△	○	△	○
	6	○	△	△	○	△	○
	7	○	△×	△	○	△	○
	8	○	△×	△	○	○	○
No.2 地点	1	○	○	△	○	○	○
	2	○	○	△	○	△	○
	3	○	△	△	○	△	○
	4	○	△×	△	○	△	○
	5	○	○	△×	△	○	○
No.3 地点	1	○	○	△	○	△	○
	2	○	△	△	△	○	○
	3	△	△×	△	△×	○	○
No.4 地点	1	△	△	△×	△×	○	○
	2	△	○	○	△×	○	○

凡例 ○：十分な数量が検出できる ○：少ないが検出できる

△：非常に少ない △×：極めてまれに検出できる ×：検出できない

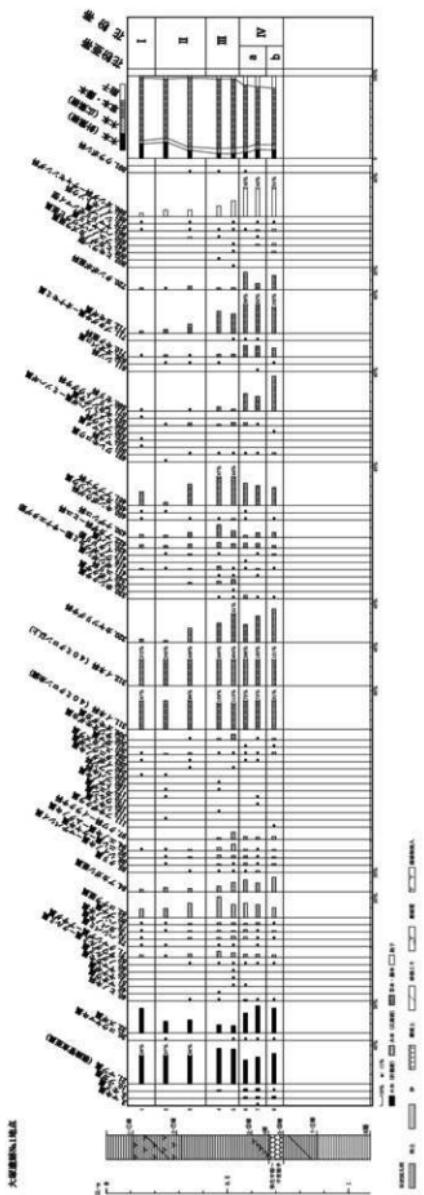


図2 No.1地点の花粉ダイアグラム(百分率)

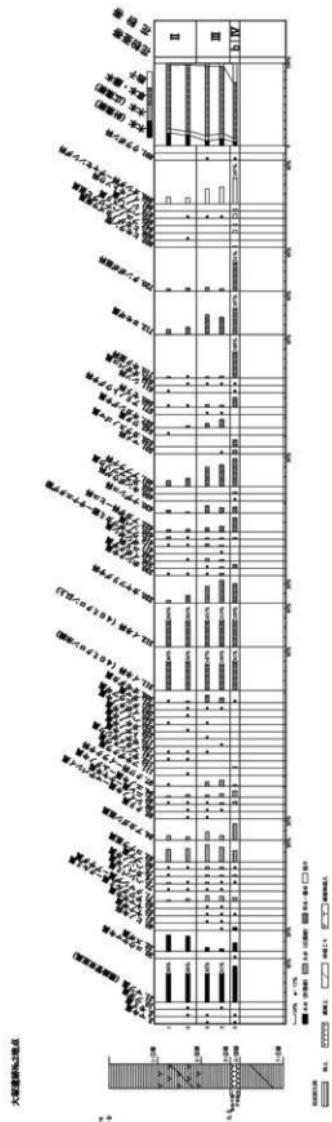


図3 No.2地点の花粉ダイアグラム（百分率）

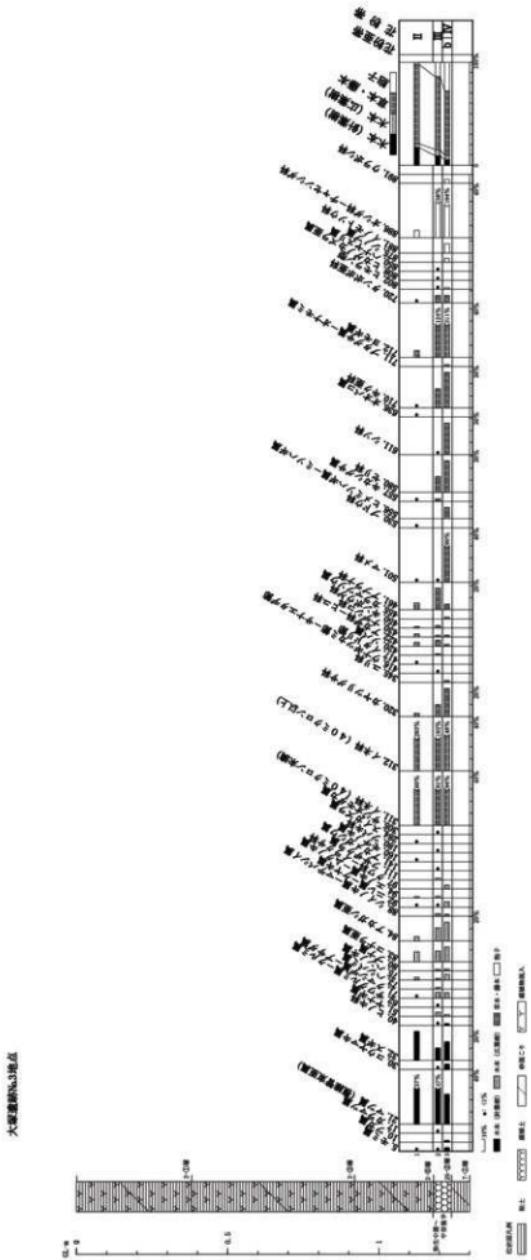


図4 No.3地点の花粉ダイアグラム(百分率)

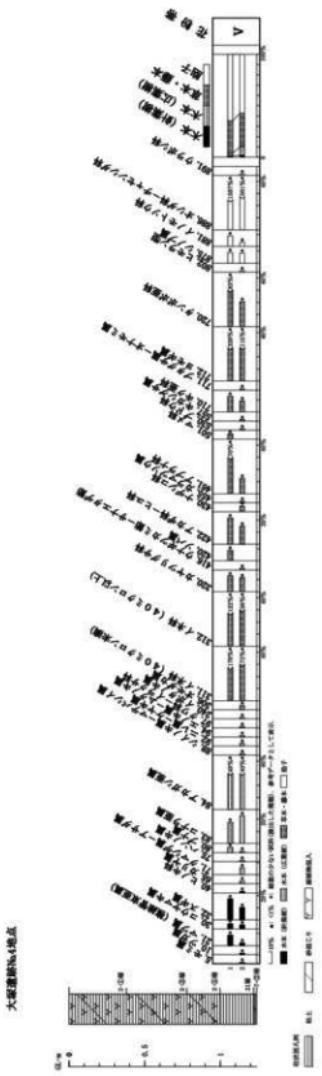


図 5 No. 4 地点の花粉ダイアグラム (百分率)

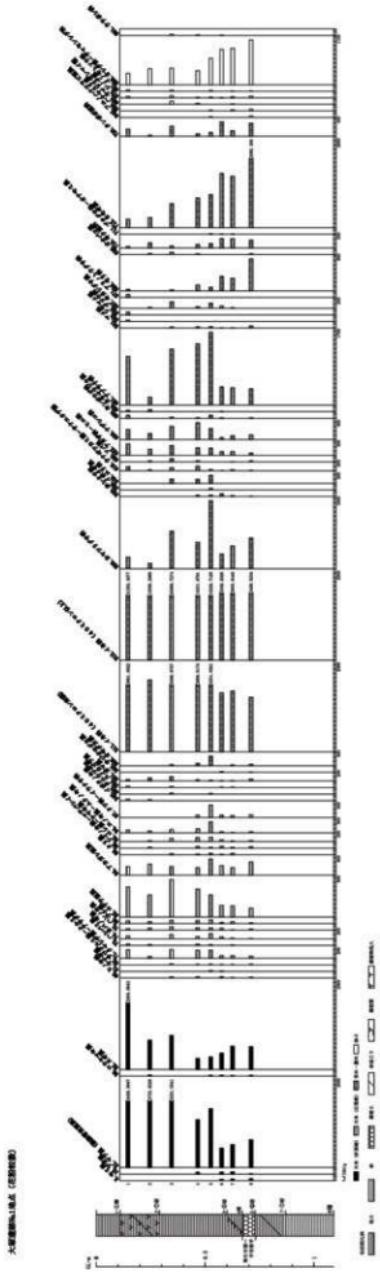
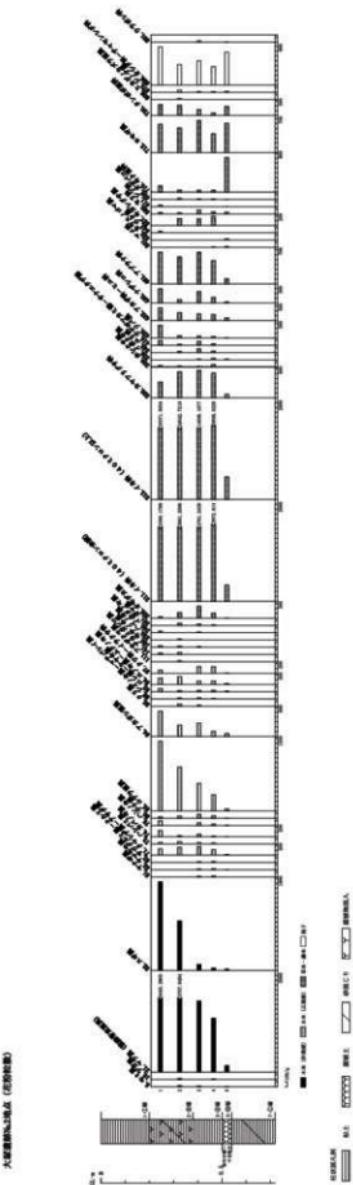


図 6 No.1 地点の花粉ダイアグラム (粒数/g)

図 7 No.2 地点の花粉ダイアグラム (粒数/g)



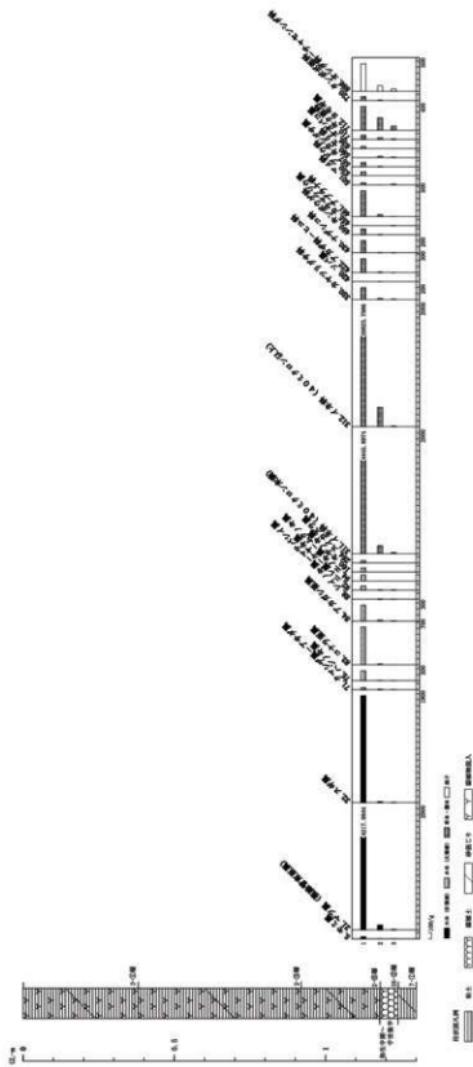
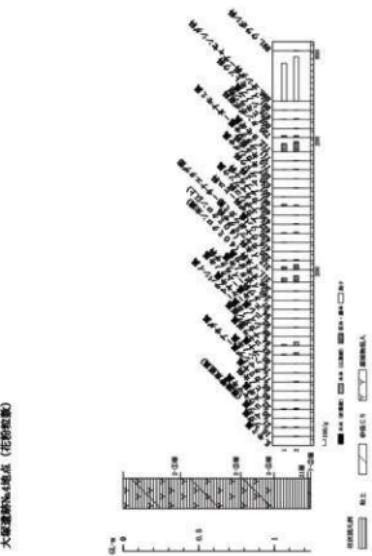


図 8 No. 3 地点の花粉ダイアグラム (粒数/g)

図9 No.4地点の花粉ダイアグラム(粒数/g)



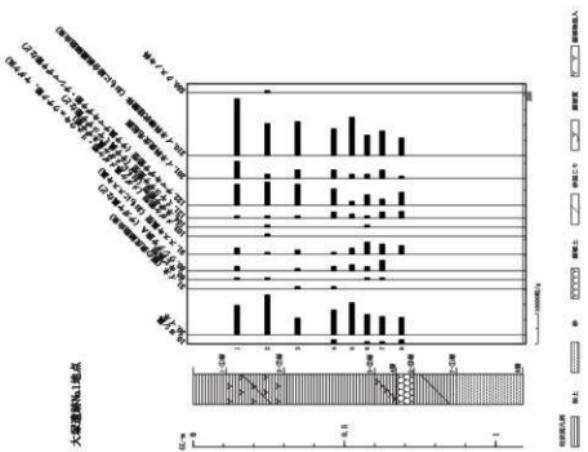


図10 No.1地点のプラント・オペルダイアグラム



1 大塚遺跡  
調査前風景  
(北西から)



2 大塚遺跡  
調査前風景  
(南から)



3 大塚遺跡  
東壁土層堆積状況  
(南西から)



1 大塚遺跡 I A 区  
遺構検出状況  
(西から)



2 大塚遺跡 I A 区  
溝 1 土層堆積状  
況(東から)



3 大塚遺跡溝 8・  
溝 9 土層堆積状  
況(南から)



1 大塚遺跡 I A 区遺構完掘状況（北から）



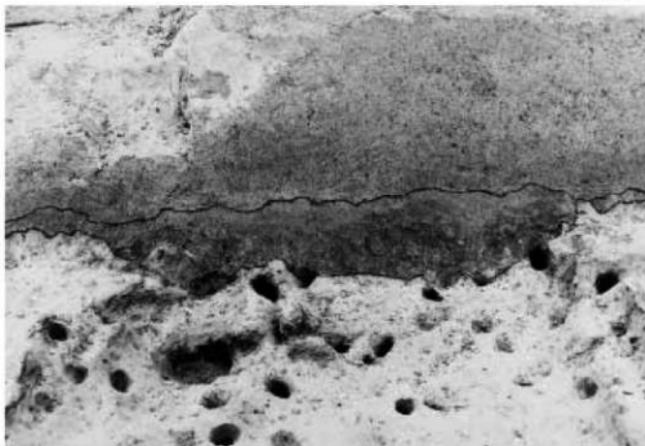
2 大塚遺跡 I B 区完掘状況（北西から）



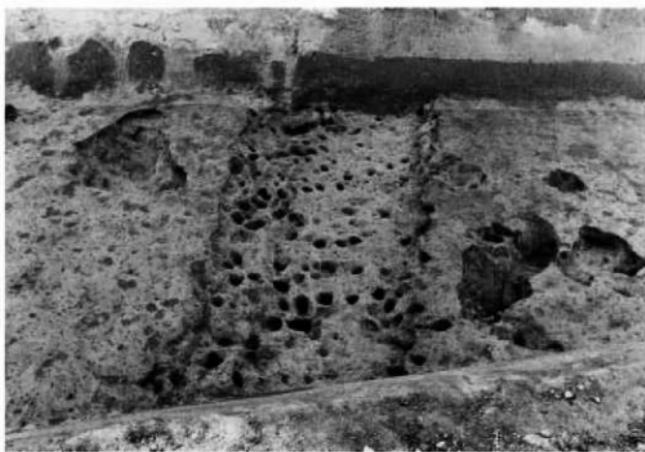
1 大塚遺跡Ⅱ区完掘状況（北から）



2 大塚遺跡溝28・溝29・溝30完掘状況（南西から）



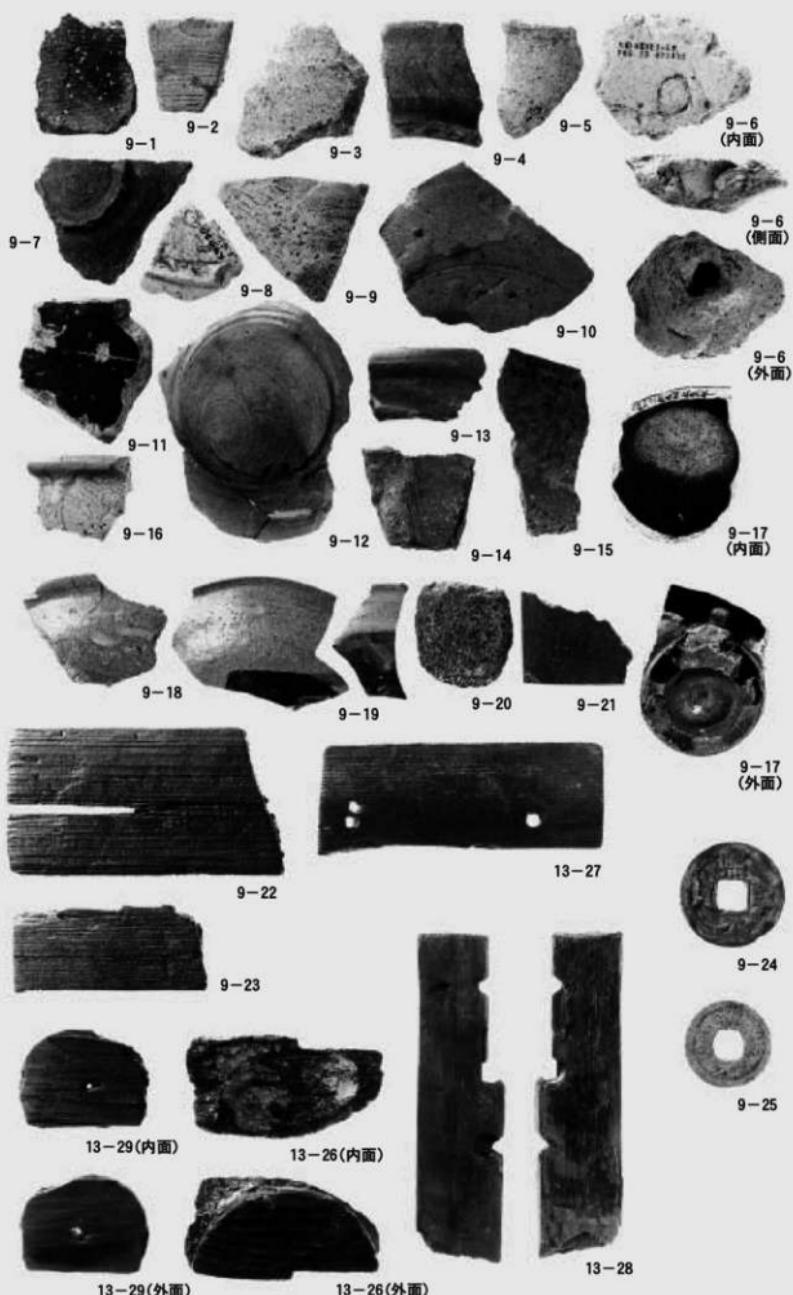
1 大塚遺跡溝27  
土層堆積状況  
(西から)



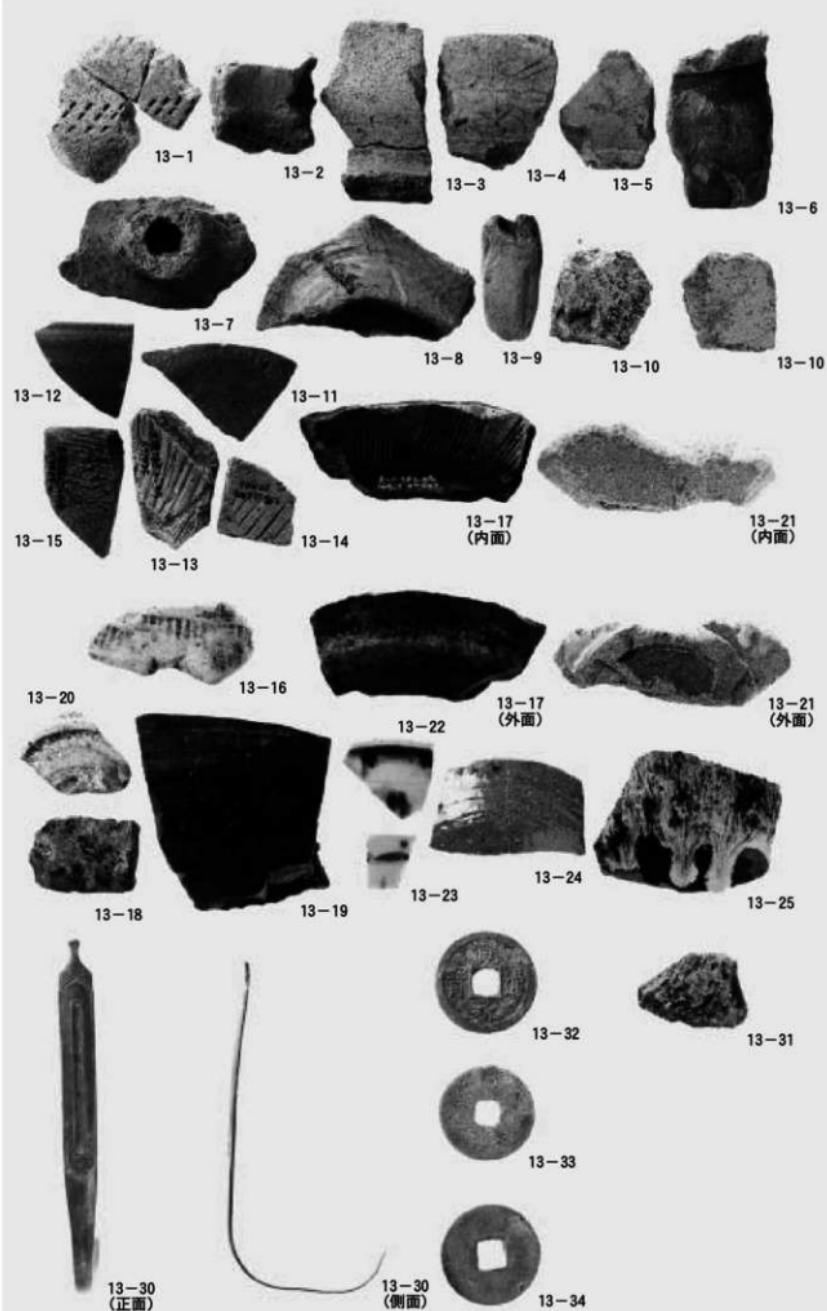
2 大塚遺跡溝27  
完掘状況（西から）



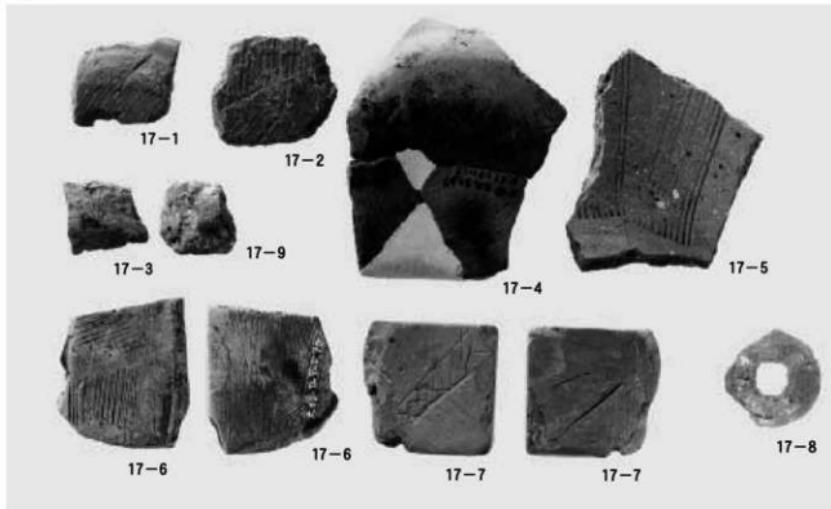
3 大塚遺跡溝25・  
溝26完掘状況  
(西から)



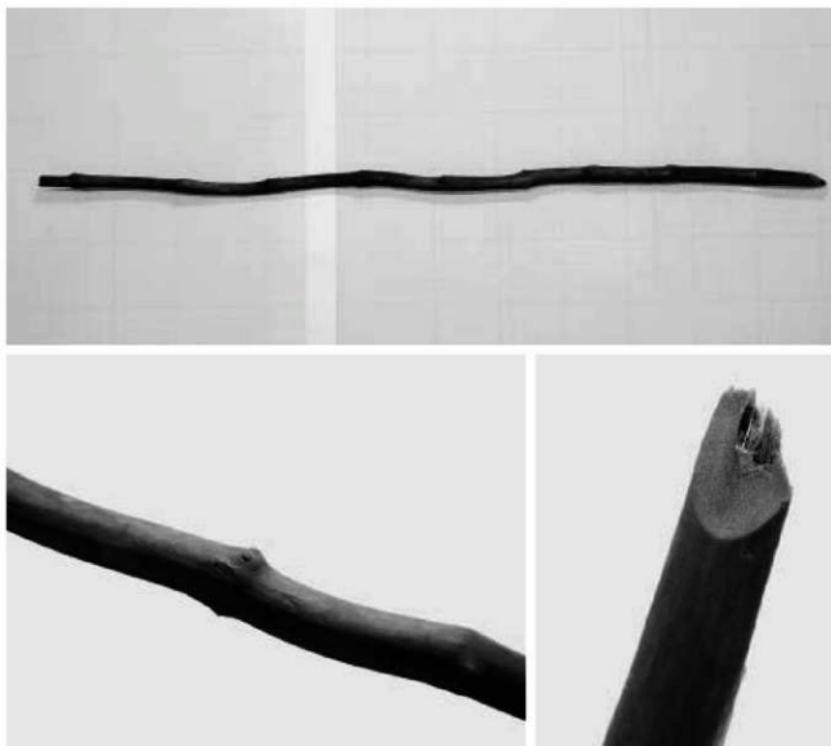
大塚遺跡 I A区出土遺物・I B区出土木製品



大塚遺跡 I B 区出土遺物



1 大塚遺跡Ⅱ区出土遺物



2 大塚遺跡溝9出土添え木

## 報告書抄録

フリガナ	オオツカイセキ							
書名	大塚遺跡							
副書名								
卷次								
シリーズ名	一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査							
シリーズ番号	1							
編集者名	伊藤智							
編集機関	鳥根県教育厅埋蔵文化財調査センター <a href="http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/">http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/</a>							
所在地	〒690-0131 烏根県松江市打出町33番地 TEL: 0852-36-8608㈹ E-mail:maibun@pref.shimane.lg.jp							
発行年月日	2009年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大塚遺跡	鳥根県 出雲市 大塚町	32203	W93	35度 22分 40.74秒	132度 45分 10.68秒	2007.10.2 ～ 2007.12.10	800m <sup>2</sup>	道路建設
遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
大塚遺跡	散布地	弥生時代 古墳時代 奈良時代 平安時代 中世 近世		溝跡、土坑、杭跡		弥生土器 土師器 須恵器	陶磁器 石製品 木製品	座標は、世界測定系である。
要約	弥生時代中期から中世後半の遺物包含層及び中世後半の溝跡を検出し、弥生時代中期以降の土地利用の様子が窺えた。							

## 大塚遺跡

2009年3月 発行

発行 島根県教育委員会

編集 島根県埋蔵文化財調査センター

〒690-0131 島根県松江市打出町33

Tel 0852-36-8608

印刷 有限会社 黒潮社